

# 野口英世 記念会報

第 69 号



# 目次

巻頭言	1
第66回野口英世記念医学賞	2
第66回野口英世記念医学賞を受賞して	4
野口英世記念奨学生	9
第29回野口英世博士顕彰記念少年科学賞	13
令和5年度野口英世記念会賞	14
令和5年度野口英世記念高等学校自然科学系部活動助成事業	14
野口英世博士顕彰記念事業	15
第62回野口英世博士顕彰記念作文コンクール	16
野口英世記念館の動向	19
第4回野口英世アフリカ賞受賞者来館	
野口英世記念奨学生奨学生証贈呈式	
第95回野口英世博士命日祭	
緑の少年団花苗寄贈	
野口英世記念館で博物館実習	
感染症ミュージアム新展示	
救世観音祭礼	
ガーナ高校生来館	
第147回野口英世博士誕生祭	
野口英世生家で年中行事を体験	

黄熱病原体をもとめて 中南米遠征100年	23
野口英世生誕150年に向けて	26
第22回心の手紙コンテスト「母から子への手紙」	28
子どもは神様からのプレゼント	30
出前授業に行きます！	32
高添一郎会長のご逝去を悼む	39
令和5年度の受け入れ資料	40
令和5年度 主な行事	41
令和6年度 主な行事予定	42
出前授業のご案内	42
2024年度企画展のご案内	43
ご寄付のお願い	44
野口英世記念館・感染症ミュージアム案内	

表紙 感染症ミュージアムの新展示資料  
裏表紙 波田野浩雲作 版画「野口英世」



## 巻頭言

令和5年は新型コロナウイルス感染症の取り扱いが5類となり、日本の社会も再び大きく変わる年となりました。令和4年7月に開館した野口英世記念感染症ミュージアムは令和5年初めて1年を通しての開館となり、野口英世記念館とミュージアムとの2つの展示館体制での一年となりました。記念館の来訪者は令和元年比76%、記念館とミュージアム合計では92%とコロナ以前に近づく数字となりました。感染症ミュージアムは12月までに2万5千人の来訪者があり、感染症に対する国民の関心の強さを知ることとなりました。来訪者へのアンケート調査においても押並べて高い評価をいただいております、数年を費やして感染症ミュージアムを準備・設立したことが、野口英世記念会にとっても、また国民の啓発という意味においても意義のある事業であったことを再認識することとなりました。

令和5年野口英世記念会の活動も変わりました。令和2年から行っていなかった野口英世記念医学賞の授賞式を、4年ぶりに猪苗代の地で、受賞者はじめ来賓の皆様をお招きし執り行い、記念講演はユーチューブにより放映しました。また、野口英世アフリカ賞受賞者3人の表敬訪問を受けました。本賞は我が国の国際賞として、内閣総理大臣が野口英世の名を冠して授与する賞であり、受賞者が記念館を訪れ直接野口英世その人と歴史に触れていただいたことは、記念会にとっても光栄な出来事でした。

野口英世記念会は、生家の維持保存と公開、記念医学賞の授与、記念奨学金の貸与・給付、記念少年科学賞の授与を行うとともに、地域と連携した活動を継続します。野口英世の人生・業績を小学生にも知ってもらう取り組みである出前授業も、令和5年は福島県、宮城県、新潟県のみならず東北他県、日本の他地域からの依頼を受け行いました。現在の陣容ではすべての依頼にお答えするのが難しくなりつつある状況であり、スタッフの拡充も行う計画です。

2年後には野口英世生誕150年を迎えます。この機会に、国内の皆様にも、野口英世の人生、研究を通して日本や世界に野口英世がもたらした功績を広く知らしめる取り組みを行う予定です。野口英世記念会は記念館と感染症ミュージアムを有する新たな時代を迎えました。これまで取り組んできた活動をさらに発展させ、さらに新たな活動にも取り組んでまいります。今後とも、皆様のご支援ご鞭撻をお願いいたします。

令和6年4月1日

公益財団法人 野口英世記念会

理事長 倉根 一郎



# 第66回野口英世記念医学賞

野口英世記念医学賞は、野口英世博士が生前に行った研究に関係のある優秀な医学研究に対し、その功績を表彰するものである。

## 受賞者

東京医科歯科大学  
高等研究院 卓越研究部門 特別栄誉教授  
医学博士 烏山 一



烏山 一 博士

## 研究課題

希少血球細胞である好塩基球の生体内での存在意義と病態形成における役割解明

## 授賞式

令和5年11月11日 午後2時  
野口英世記念感染症ミュージアム  
(野口英世至誠館)

## 受賞研究課題概要

好塩基球は、今から140年以上も前にドイツの細菌学・免疫学者パウル・エールリッヒによって発見された血球細胞です。この細胞は末梢白血球のわずか0.5%を占めるに過ぎず、また末梢組織中に常在する肥満細胞といくつもの類似点があるため、血中を循環する肥満細胞の前駆細胞であると誤解され、長い間免疫学的研究の対象とはなりませんでした。

そのような状況の中、烏山博士は世界に先駆けて最先端の好塩基球解析ツールを開発し(図1)、これまで謎とされてきた生体内での好塩基球の存在意義と病態形成における役割を次々と明らかにしてきました。まず、独自に開発した遺伝子改変アレルギーモデルマウスの解析を通じて、肥満細胞とは明らかに異なる



図1

好塩基球のユニークな役割を発見しました。それを起点にして、好塩基球がアトピー性皮膚炎や全身性アナフィラキシーなどのアレルギー病態をひき起こす「悪玉細胞」として機能する一方で、本来の「善玉細胞」としての機能を発揮してマダニや消化管蠕虫などの寄生虫感染に対する生体防御ならびに炎症反応鎮静化に重要な働きをしていることを突き止めました(図2)。

さらに研究を発展させ、慢性閉塞性肺疾患(COPD)や急性呼吸促進症候群(ARDS)、自己免疫疾患などアレルギー以外の病態形成にも好塩基球が関与しているという予想外の研究成果を次々に発



図2

## 授賞式次第

開式の辞	理事	平山 壽哉
選考経過報告	選考委員長	木下タロウ殿
医学賞授与	理事長	倉根 一郎
式辞	理事長	倉根 一郎
来賓祝辞		
福島県知事	内堀 雅雄殿	
駐日ガーナ共和国特命全権大使		
ジェネヴィーヴ・エドゥナ・アパルウ殿		
猪苗代町長	二瓶 盛一殿	
東京医科歯科大学副学長	清水 重臣殿	
祝電披露		
受賞者謝辞	烏山 一 殿	
記念講演	烏山 一 殿	
閉式の辞	理事	太田 伸生



医学賞を受賞する烏山一博士ご夫妻



謝辞を述べる烏山博士

表して、好塩基球研究の新たなパラダイムを創出しました。それにより世界中の免疫・感染症・アレルギー研究者が好塩基球に注目するようになり、これまで停滞していた好塩基球研究が一気に花開きました。

このように烏山博士の業績は、基礎免疫学の進歩に多大な貢献を果たすと共に、開発途上地域における寄生虫感染症ならびに先進諸国におけるアレルギー疾患をはじめとする難治疾患の克服につながる社会的にも有意義なものであり、野口英世記念医学賞に相応しい独創的な研究成果であります。



祝辞を述べるアパルウ駐日ガーナ共和国特命全権大使



祝辞を述べる清水重臣東京医科歯科大学副学長



# 第66回野口英世記念医学賞を受賞して

鳥山 一



これまで錚々たる先生方が受賞されてきた野口英世記念医学賞を拝受するという栄誉にあずかりましたこと、身に余る光栄に存じます。この度の賞の選定にご尽力いただいた野口英世記念会の皆様ならびに木下タロウ先生をはじめとする選考委員会の先生方に深く御礼申し上げます。また、私を推薦してくださいました兵庫医科大学元学長で、第55回の野口英世記念医学賞の受賞者でいらつしやいます中西憲司先生に心より感謝申し上げます。



野口博士銅像とともに 2023年 福島 野口英世記念館

実は私、25年前の夏休みに家族とともに猪苗代にある野口英世記念館を訪れたことがあります。



野口英世記念館訪問 1999年

野口博士のご実家が現存し、しかもあの有名な囲炉裏がきれいに保存されていることに感銘を受けたことをよく覚えております。また、8年前に私の所属いたします東京医科歯科大学とガーンナ大学が国際交流協定を締結することになり、その機会にガーンナの首都アクラにある野口記念医学研究所と野口博士が黄熱病の研究をされた研究棟・実験室を訪問いたしました。野口博士のご生誕とご逝去の地

を訪れた際には、まさかのちに自分が野口英世記念医学賞をいただけるとは夢にも思いませんでした。このたび25年ぶりに野口英世記念館を再び訪れることができ、しかも野口英世記念医学賞を受賞するという光栄に浴しましたこと、私にとりまして大切な宝物となりました。



野口博士銅像とともに 2016年ガーンナ



私は1978年に東京医科歯科大学を卒業後、小児科医になることを夢見て筑波大学附属病院で2年間初期研修を行いました。研修中に免疫が関わる多くの症例を経験する中、免疫学知識の欠如を痛感し、それをきっかけに東京大学免疫学教室の多田富雄教授のもとで大学院生として4年間を過ごしました。そのなかで研究の面白さに目覚め、それ以来免疫学研究の道を歩むことになりました。多田先生は、第20回の野口英世記念医学賞（野口博士生誕百年記念賞）を受賞されています。恩師である多田先生が受賞された賞をその門下生である私が受賞するのは、大変名誉な事があります。今回受賞対象となった好塩基球



恩師多田先生とともに 1982年

研究は、私が2000年に22年ぶりに母校にもどってからスタートさせたもので、とりわけ思い入れの強い研究ですので、この上ない喜びを噛みしめております。

### 「好塩基球とは？」

好塩基球は145年も前に、ドイツの有名な科学者パウル・エールリッヒ博士によって発見されました。当時、彼が好塩基球を発見した方法はいまでも使われています。血液をスライドガラスの表面に広げてから、いろいろな色素の混じった染色液で染めます。色素で染まる顆粒を沢山もった細胞（顆粒球）のうち、とくに塩基性の色素で青紫色に良く染まる顆粒をもった細胞が私たちの研究対象である好塩基球です。血液中を流れる白血球細胞をみてみると圧倒的に多いのが好中球で、次に多いのがリンパ球です。好塩基球はというと200個に1個の割合、つまり白血球全体の0.5%を占めるに過ぎない極めてマイナーな細胞です。こんなに数が少ないと解析するのが難しく研究の対象になりにくい細胞でした。しかも、皮膚など体の組織の中にいるマスト（肥満）細胞と特徴が似ていることからマスト細胞の前駆細胞とか血中循環型のマスト細胞の変わり種と誤解され、たとえ機能があったとしてもマスト細胞と似たり寄ったりだろうと考えられてきました。一方注目すべ

きは、好塩基球が進化の過程で数多くの動物種で保存されていることです。このことから好塩基球にはマスト細胞とは異なる固有かつ重要な役割があるのではと推測されましたが、その詳細は長い間わからずじまいでした。そういう私も、好塩基球と偶然出会うまでは好塩基球にはまったく興味がありませんでした。

### 「好塩基球との遭遇／アレルギーを」

#### 引き起こす悪玉細胞としての役割を解明

私は東京医科歯科大学に赴任する前、東京都の研究所（現、東京都医学総合研究所）で主に抗体産生に関わるBリンパ球の発生・分化の研究に従事していました。スイスから帰国して研究所に赴任して間もないころ、東京都の方からアレルギー研究をしないかというプロポーザルがありました。このアトピープロジェクトで私たちが樹立したのが、生まれながらにしてアレルギー体質をもつ「ゴトランスジェニックマウス」です。幸いなことに、化学物質、卵、ダニに対するアレルギーモデルマウスを樹立することができました。これらのマウスにアレルギーを注射すると、急速な体温低下をともなうアナフィラキシーショックが引き起こされました。非常に明確なアレルギー反応が再現性よく誘導できることが分かったので、特許を取って、アレルギー特異的なアレルギーモデルマウスとして商



品化することができました。一方、私自身にとって、確かに教科書に書いてある通りのきれいなアレルギー反応を誘発できるという点では良いのですが、学問的新規性という点では少しもの足りなさを感じていました。

ところが、このマウスをさらに解析した結果、思いもよらないことが明らかになりました。アレルギーモデルマウスの耳の皮膚にアレルギーを注射すると、30分以内に皮膚が腫れました。これはいわゆる即時型（蕁麻疹タイプ）のアレルギー反応で教科書に書いてある通りの現象でした。この腫れはすぐに引いたのですが、その後も観察を続けるとアレルギー投与2日目から非常に強い耳の腫れが出現し、耳の皮膚が真っ赤になりました。私たちはこの反応を「IgE依存性遅延型アレルギー反応 (IgE-CAR)」と名付けました。アレルギー反応をひきおこす細胞として有名なマスト細胞のいないマウスでは、予想どおり最初の即時型の皮膚の腫れはまったく見られませんでした。遅延型アレルギー反応の方はマスト細胞がいなくても出現しました。いったい遅延型アレルギー反応を引き起こす細胞は誰なのか、一生懸命犯人捜しを始めたのですが、一向に犯人像がつかめないまま1年余りがたつてしまいました。諦めかけたころ、細胞移入の実験をおこなった結果、犯人に行き着きました。何んと好塩基球が犯人だったので

す。好塩基球は皮膚に集まってきた炎症性細胞の中で、わずか1-2%を占めるに過ぎないマイナーな細胞です。こんな僅かの好塩基球がひどいアレルギー反応を誘導するというのはすごいことだと感激しました。この好塩基球との遭遇が私を好塩基球研究にぐいぐいと引き込んでいきました。

研究を進めた結果、「IgE依存性遅延型アレルギー炎症だけではなく、「IgE依存性全身性アナフィラキシー」の発症にも好塩基球が重要な役割を果たしていることも明らかにすることができました。このことは、好塩基球とそ

の産物がアレルギー疾患の治療ならびに予防のための創薬標的になり得ることを示しています。

### 「好塩基球の存在意義

#### （善玉細胞としての役割）を解明」

先ほど述べたように、好塩基球は進化の過程で数多くの動物種で保存されています。疑問として残るのは、好塩基球が私たちの体にとって不都合なアレルギーを引き起こすために存在するのかという点です。好塩基球の本来の機能は何なのか、明らかにすることが次の課題となりました。当時、好塩基球研究を推進する上で大きな障害となっていたのは、好塩基球の機能を解析するためのツールがほとんど無かったことです。そこでまず開発したのが、任意のタイミングで好塩基球を生体内から除去するためのツールです。マウスの体内に存在する細胞のなかで、好塩基球だけにジフテリア毒素の受容体を発現するマウスを樹立しました。このマウスにジフテリア毒素を注射することで、好塩基球のみを一過性に消し去ることができます。好塩基球の居るマウスと好塩基球の居ないマウスを比較することで生体内での好塩基球の役割を明らかにすることができるようになりました。その一例として寄生虫感染防御における好塩基球の役割を明らかにした研究を紹介いたします



記念講演を行う烏山博士



す。

マダニは吸血性の外部寄生虫で、数日にわたって宿主動物に寄生し吸血します。やっかいなことに、吸血の際にウイルスなどさまざまな病原微生物を宿主動物に注入することによってライム病や重症熱性血小板減少症候群などの重篤な感染症を引き起こします。一度マダニに感染すると、宿主動物はマダニ吸血に対する抵抗性を獲得することが知られています。

その結果、2度目以降のマダニ感染ではマダニによる吸血が阻害され、吸血に伴う病原微生物感染の危険性も減ります。私たちはマウスにマダニを感染させる系で好塩基球の動態ならびに役割を解析しました。一度目のマダニ感染ではマダニが食いついた皮膚への好塩基球の集積は認められませんが、2度目のマダニ感染ではマダニの吸い口のまわりに沢山の好塩基球が集まっていることを見いだしました。2度目の感染の直前に、先ほど紹介したジフテリア毒素を使った系で好塩基球を生体内から除去してやると宿主動物側の抵抗性が消失して、マダニは初めての感染ののよう

に沢山吸血して丸々と太りました。このことから好塩基球はマダニに対する抵抗性発揮に重要な働きをしていることが明らかになりました。

私たちの体の中に住み着く寄生虫もいます。

消化管寄生虫と呼ばれるものがその代表格です。今の日本では消化管寄生虫感染にお目にかかることは少ないと思いますが、世界的に見るとまだまだ蔓延している地域があり、マラリア患者数の10倍もの人が消化管寄生虫感染で苦しんでいるといわれています。消化管寄生虫の代表である鉤虫は卵から成虫になる過程でヒトの体内を巧みに動き回ります。感染者の便とともに体外に排出された鉤虫の卵は土のなかで孵化して幼虫になります。幼虫は素足で歩いているヒトの皮膚から体内に侵入し、血管の中を通ってまず肺に到達して肺胞壁をつき破って気道に入り、さらに食道を介して消化管に入って吸血をします。私たちは、マウスに感染する鉤虫を使って好塩基球の役割を調べました。マダニの実験ののうに、はじめて鉤虫に感染したマウスと2度目の感染をおこしたマウスを比べました。初めての感染では、皮膚から入った幼虫はすぐに血管の中に侵入して肺へ行ってしまうのですが、2度目の感染時には幼虫が侵入した皮膚に好塩基球が沢山集まってきて幼虫を取り囲み、皮膚で幼虫を捕捉していることがわかりました。この際にジフテリア毒素を使って好塩基球を除いてやると幼虫が皮膚で捕捉されることはなく、まるで初めての感染の時のように即座に肺へ移行しました。すなわち、

2度目の鉤虫感染では、好塩基球が幼虫を皮膚で捕捉することにより、肺や消化管に感染が拡大しないようにしていることが分かりました。以上のことから、好塩基球はマダニや鉤虫などの寄生虫に対する生体防御に重要な役割を果たしていることが明らかになりました。

## 「好塩基球はアレルギー以外の

### 病気にも関与している」

研究をさらに進めた結果、好塩基球がアレルギー疾患や寄生虫感染防御だけでなく、いろいろな病気の発症にも関与していることが分かってきました。その一例として慢性閉塞性肺疾患（COPD）における好塩基球の役割について紹介いたします。俗にタバコ病といわれるように最大の原因は喫煙で、悪化すると咳・痰・息切れがひどくなり、生活に支障をきたします。病理学的にみると、慢性気管支炎と肺気腫が認められます。空気の通り道である気道の末端はブドウの房の様な構造になっていて肺胞と呼ばれています。ここは酸素と二酸化炭素のガス交換が行われる重要な場所なのですが、肺気腫になると肺胞の壁が破壊されて大きな袋のようになってしまい、表面積が減るのでガス交換の効率が著しく低下してしまいます。私たちは、マウスを使ってどのようにして肺気腫が形成されるのか、

そのメカニズムを解析しました。マウスにタバコを吸わせる代わりに肺にエラストアーゼと呼ばれる酵素を注入した場合にも肺気腫が形成されます。この際に、ジフテリア毒素を使って好塩基球を除去してやると肺胞構造が保たれたままで肺気腫は形成されませんでした。

逆に言うと、好塩基球が肺気腫形成に重要な働きをしていることが明らかになりました。さらに詳しく調べた結果、肺に入ってきた好塩基球が分泌するサイトカイン $\text{IL-13}$ が肺に入ってきた単球と呼ばれる細胞に作用すると間質マクロファージという細胞に分化すると、この間質マクロファージが分泌するMMP-12と呼ばれる蛋白分解酵素が肺胞の壁の構成成分を破壊することで肺気腫が形成されることが判明しました。この解析結果を踏まえて、これまで根本治療法のなかったCOPDに対する新たな予防法・治療薬の開発が進むものと期待されます。

さらに研究を進めた結果、COPDだけでなく急性呼吸促進症候群や自己免疫疾患の病態形成にも好塩基球が関与しているという予想外の結果を得ました。

### 「今後の研究の展開」

私たちの研究を通じて、好塩基球には2面性があることがわかりました。ひとつには悪玉細胞としての役割で、アレルギー疾患を

じめいろいろな炎症性疾患を引き起こします。一方、寄生虫感染に対して抵抗性を発揮するという善玉細胞としての重要な役割を担っています。いずれの場合も、好塩基球は炎症部位に浸潤している細胞のわずか1-2%を占めるに過ぎないので、治療の標的としては大変魅力的です。従いまして、好塩基球研究は先進諸国のアレルギー・炎症性疾患の新規治療法の開発に役立つとともに、開発途上国における寄生虫感染に対するワクチン開発に貢献するものと期待しています。

### 「好塩基球研究を通じて学んだこと」

私は偶然にも好塩基球に遭遇し、その役割解析を通じていくつかのことを学びました。

1. 山椒は小粒でもびりりと辛い。  
数が少ないからといって侮ってはいけない。

2. すきま産業にチャンス有り。

単に流行を追うだけでなく、誰もやっていないことにチャレンジすることが大切。

3. 自分の専門外のことに興味をもつことが大事。

ひよんなことから道が開ける。

4. 温故知新。

先人の研究をリスペクトして、そこから新しいものを見いだすことができる。

とくに寄生虫関連の研究では多くの事を学びました。

最後になりましたが、私たちの好塩基球研究が大きく発展したのは多くの方々との協力があつたからに他なりません。この場を借りまして、歴代の研究室スタッフ、大学院生、沢山の国内外の共同研究者の皆様方に深く感謝申し上げます。そして、私のわがまま、放浪人生に愛想を尽かさずにとともに歩んでくれた私の家族、妻とふたりの娘に感謝します。



鳥山研究室OB・OG会 2023年



# 野口英世記念奨学生

野口英世記念奨学生制度は、有為な人材を育成し、良き社会人として世に送る目的で、高等学校に在学する間の学資金の給付を行う制度です。  
令和6年度の第66期奨学生は、奨学生選考委員会の推薦を受け、10名に決まりました。新しい奨学生が、それぞれのすばらしい夢を綴ってくれました。

## 「私の将来の夢」

会津若松市立第一中学校

井上 奈々  
いのうえ なな



私の将来の夢は、ダンサー兼振付師として活動することです。私は幼いころからダンスが大好きで、憧れのダンサーの方が踊っている姿を見て、私もこんな風になりたいと思ったのがきっかけでこの夢を持ちました。そのため、高校ではダンスを専門的に学んで自分のダンス力をレベルアップさせ、ダンスを通して様々な人とつながりたいので英語を学びたいと思います。そして高校卒業後には、プロダンサーとして様々なところで活躍し、人々に感動をあたえたいです。また私は、歌を歌うことも好きなのでマルチに活動できるダンサー

## 「将来への目標」

郡山市立郡山第六中学校

織田 零  
おだ れい



私には、将来になりたいと思っている具体的な職業はありません。ですが、母に育ててくれた今までの恩返しをするという目標があります。その目標のためにまず、高校では自分がしたいこと、自分の得意なことを探したいと思っています。

になりたいと考えています。  
この夢をかなえるには私一人の力だけではなく、家族や周囲の方々の支えが必要です。いつか、私を支えてくれた全ての人に感謝や恩返しをできるように、がんばりたいと思います。

そして、自分の好きなことを活かせる職業や、自分の長所を活かせる職業など、自分に合った職業を高校を卒業するまでに見つけることができたらと思います。

高校での経験は、中学校より刺激のあるものになり、授業で学ぶこともたくさん増えると思います。そういった経験で得たものや、授業で学んだことをしっかりと身につけ、中学校の時より成長した自分になれたらと思います。



## 「高校生活の抱負」

郡山市立郡山第五中学校

柿沼 かきぬま  
佑奈 ゆな



私の将来の夢は、保育士になることです。いつも笑顔で子どもの気持ちに寄り添える優しい保育士になりたいと思っています。そのために高校では、文武両道を目指し、有意義な高校生活を送りたいと思っています。勉強面では、授業の予習や復習をしっかりと行い、苦手な教科でも毎日コツコツと努力をして克服していけるように頑張りたいと思います。また、部活動にも入部して、自分のスキルを磨けるようにしたいです。さらに、ボランティア活動にも積極的に参加し、たくさんの人々の力になり、役に立つ人になりたいと思っています。

これからも、周りで支えてくれている人への感謝の気持ちを忘れずに、何事においてもたくさん努力をして、自分の夢を叶えられるように一生懸命頑張っていきたいと思います。

## 「私の夢」

二本松市立東和中学校

庄司 しょうじ  
皓星 こうせい



私は中学校生活の中で、仲間の大切さを知りました。勉強にしても、行事やイベントにしても、仲間がいるからこそ、共に協力し合い進んでいくのだと強く実感しました。

そのため私は、高校に入學したら友達をたくさん作りたいと思っています。そこでの出会いを大切にし、人生で一度しかない高校生活を豊かなものにするため、多くの仲間と共に歩んでいきたいと思っています。

また、私は将来、高校やその先の大学で学んだことを活かし、映像や3D関連の仕事に就き、多くの人を楽しませられるような作品を作りたいと考えています。そこで学生のうちから、様々な作品に触れて表現について学んでいきたいです。そして何よりも、周りの人々と互いに尊敬し合えるような関係を築けるかっこいい大人になりたいと思います。

## 「私の夢と高校での生活」

郡山市立明健中学校

中村 なかむら  
花音 かのん



私の将来の夢は、小・中学校の教師になることです。なぜそう考えたかというところ、「わからない」を解決してくれる「先生」という存在に心強さと尊敬を感じ、自分も将来あのような生徒の悩みを解決できる教師になりたいと思ったからです。

高校生活では、教師になるという目標を達成するために、まずは次のステップに向けて国公私立大学へ現役合格できるよう、勉強に励みたいです。また、勉強だけではなく、「何事にも全力で取り組む」をモットーに、実り多い高校生活を送りたいです。

これまでに、たくさんの場面で私のことを支えてくれた母に感謝の気持ちを込めて、教師への道を一步、また一步、確実に進んでいきたいと思っています。



## 「私の将来の夢」

会津美里町立本郷中学校

ふなやま  
舟山 かのん  
叶暖



私は、困っている人に夢を与えられるような大人になりたいと思っています。そのため、一番身近なところで私に夢を与えてくれた教師になりたいと思います、その第一歩としての志望校合格に向けて頑張っています。そして、私の教師になるという夢を後押ししてくれる野口英世記念会の人たちに心より感謝いたすとともに、期待に応えられるよう精一杯夢を叶える努力をしていこうと思います。

わからない自分の未来に対して、不安になることもありますが、「艱難汝を玉にす」という言葉を思い出しながら、立派な人間に必ず成長することができると信じて、どんな壁にぶつかっても夢を叶えるために乗り越えていきたいです。

## 「将来の夢に近づくために」

南会津町立田島中学校

もり  
森 かりな  
榎梨奈



私は将来スポーツに関わる仕事がしたいと思っています。そう思ったのは、小学校二年生から続けているバレーボールがきっかけでした。私が希望する高校は総合学科なので多様なカリキュラムが選択できます。進学したらスポーツについて専門的に学び、将来の夢に近づくことや知識の幅を広げることができると思いました。また、高校の部活動では同じ目標をもった仲間たちと切磋琢磨しながら部活動に熱心に打ち込み、少しでもチームに貢献できる選手になりたいと考えています。私は中学校で各種検定にも挑戦してきました。様々な教養を身につけたいと思ったからです。高校進学後も自分を支えてくださった方への感謝を忘れず、文武両道を図りながら充実した高校生活を送っていききたいと考えています。

## 「高校生活への抱負」

郡山市立明健中学校

やまぐち  
山口 いくま  
生真



私は将来、教師になりたいと考えています。そのため、高校では国公立大学進学を目標に勉強に励みたいと思っています。また、中学校で三年間学級委員長を務めたことで得た、リーダーシップを発揮し、人の前に立って活動するという経験を積み、勉強だけでなく、人間性も高校では磨いていきたいと考えています。もちろん部活でも、高校は、自分の力をさらに伸ばしていくことができる場所だと思っているので、チーム内で欠かせない選手となり、将来自分が、部活動を生徒達へ教えるという立場の人間になれるよう、自分もつ力を向上していきたいです。

将来、教師になることで、今までお世話になった先生方や、なにより、私のために一生懸命に働いて、何不自由ない生活で支えてくれた、親への恩返しになると思います、高校生活が充実したものにしていきたいと思っています。

## 「私の将来」

いわき市立内郷第二中学校

吉田 よしだ

雅 みやび



私は将来、自分の生まれ育った福島県で看護師として働く事が夢です。きっかけは東日本大震災です。喘息で苦しむ私に寄り添い、背中を擦って下さった看護師の方の手の優しさを今でも覚えています。自らも被災者でありながら懸命に人を救う姿に感銘を受けました。そして、私も同じ職に就き、病気の方の心に寄り添うことのできる看護師になりたいと決意しました。

看護師になる夢を叶える為に、学校に進学してからも日々の勉強に励むと共に、自分の可能性を信じ、努力し続ける事で自分自身を成長させたいです。

同じ夢を叶えた姉は一足先に看護師として働いています。私も病気で苦しんでいる方に元氣と勇氣を与える事のできる優しい手をもった看護師となり、私を育ててくれた福島県に恩返しをしたいと思います。

## 「将来の夢と抱負」

福島市立平野中学校

吉野 よしの

唯 ゆい



私の将来の夢は、農業に関係する職業に就職し、日本の農業の後継者になることです。そのために、高校での抱負は二つあります。

一つ目は、優秀な成績をとることです。私は、将来の選択肢を増やすため、大学進学を希望しています。希望する大学に進学するために、高校では資格取得にも積極的にチャレンジし、高い学力を身につけたいです。

二つ目は、農業の技術を身につけることです。私が希望する高校では、農業の実習を三年間、二年生からは自分で選択したコースのより専門的な実習ができます。また、研究発表などのチャンスも豊富にあります。私は、それらのチャンスを最大限に活かし、農業に必要な技術を高校で身につけられるよう努力したいと思います。

これらの抱負を実現し、三年間の高校生活を充実させられるよう頑張ります。





# 第29回野口英世博士顕彰記念少年科学賞

野口英世博士生誕の地、猪苗代町の小中学校から作品を募集する野口英世博士顕彰記念少年科学賞は第29回を数えました。今回は小学校131点、中学校3点、計134点の研究作品の応募がありました。熱意をもって研究に取り組んだ作品が多くみられました。令和5年11月9日野口英世至誠館において授賞式が執り行われました。

本年度の入賞作品は左記の通りです。おめでとうございます。

## 最優秀賞

よみがえれ猪苗代湖！ 水質日本一に！ Part 2  
猪苗代湖の漂着水草（ヒシ）で紙をつくろう Part 2

猪苗代小学校 6年 杉原 蓮  
猪苗代中学校 2年 渡部 心結

## 優秀賞

はなのいろみずのじっけん  
どのみものが早くこえるかな？  
身の回りの山菜図かん 調べて採って食べてみた  
身近にあるセミのぬけがら調べ パート2

長瀬小学校 1年 鈴木 美優  
翁島小学校 2年 加藤 悠花  
翁島小学校 3年 齋藤 義明  
翁島小学校 2年 坂本 隆仁  
翁島小学校 4年 坂本 陸仁  
長瀬小学校 5年 渡部 正和

## 佳作

にわのバツタずかん  
イネのせい長日記 ～おいしい猪苗代のお米が大きくなるまで～

翁島小学校 1年 齋藤 穂

たねがなくても野さいのめが出タネ？  
だっ皮する生き物について  
かたつむりを育ててみよう  
どんな飲み物が早く凍るかな？  
カイコを育てよう  
なになに図鑑

吾妻小学校 2年 武藤 遥紀  
翁島小学校 3年 佐藤 逢子  
猪苗代小学校 4年 小坂橋船斗  
翁島小学校 5年 渡部 紘駕  
翁島小学校 6年 加藤 柚希  
翁島小学校 6年 楠 脩汰  
長瀬小学校 6年 菅沼 慎



猪苗代中学校 2年 渡部 心結さん



猪苗代小学校 6年 杉原 蓮さん

## 令和5年度「野口英世記念会賞」

福島県教育委員会が主催する中学生・高校生の優れた科学・技術研究論文を称える「野口英世賞」、国際理解に関する優秀な論文を称える「朝河賞」の優秀作品に「野口英世記念会賞」を授与しています。

令和6年1月5日に行われた合同表彰式で当会倉根一郎理事長より表彰状や記念品が贈られました。

受賞されたみなさまおめでとうございます。

### 野口英世記念会賞

#### ●野口英世賞 中学校 個人研究の部 最優秀賞

「ミドリシジミ類のオスの翅の色味・輝きの役目」

福島大学附属中学校 2年 守谷 史佳

#### ●野口英世賞 高等学校 共同研究の部 最優秀賞

「上部白亜系双葉層群足沢層に産出する浮遊性有孔虫化石について」

福島県立会津学鳳高等学校SSH探求部古生物班 3年

菅家将人 小柳陽太 坂本衣織  
志賀海斗 四垂蒼羅 田崎友康

#### ●朝河賞 中学校の部 最優秀賞

「同じベクトルで歩める世界へ」

会津美里町立高田中学校 3年 千葉あきの

#### ●朝河賞 高等学校の部 最優秀賞

「真の国際交流」の在り方 ―原爆投下を通して考える―

福島県立原町高等学校 1年 鈴木 桜子

## 令和5年度 野口英世記念 高等学校自然科学系部活動助成事業

公益財団法人野口英世記念会では、野口英世が生涯をかけて世界の人々のために科学の研究に取り組んだことから、科学への興味関心を高め、未来を担う人材育成を図る目的として、部活動（研究活動）の充実のために、福島県の高校生の自然科学系部活動の助成事業を行うことといたしました。

高校生みなさんの活発な研究活動を期待いたします。

令和5年度の助成対象校は左記の通りです。

#### ●福島県立磐城高等学校 自然科学部 ●福島県立磐城桜が丘高等学校 科学部



野口英世記念会賞受賞のみなさん



# 野口英世博士顕彰記念事業

野口英世生誕の地である猪苗代町では、町内の小・中学校の児童生徒が「二十一世紀の国際社会において野口英世に続く日本人」になることを期待し、スポーツや文化事業を通じ、野口英世の精神である「忍耐・努力」を培うことを目的にした種々の顕彰記念事業を行っています。

令和6年には猪苗代町内の小学校の統合があり、小学校6校での顕彰記念事業は今年度が最後となります。これまで各学校で事業に携わっていただいた全ての方々に感謝申し上げます。



小学校体育祭 2023年9月6日



小学校スキー大会 2024年2月8日



小中学校音楽祭 2023年9月28日



# 第62回野口英世博士顕彰記念作文コンクール

野口英世博士のふるさと猪苗代町の小学校4年生と中学校2年生を対象に募集を行う「野口英世博士顕彰記念作文コンクール」の授賞式が11月9日に行われました。

郷土の先輩でもある野口英世への想いや、野口英世の生き方から学んだことを書いた作品が多く寄せられました。授賞式では特選に選ばれた猪苗代小学校4年高地雛美さんと猪苗代中学校2年五十嵐梓心さんが受賞作文を朗読しました。

## 特選

### 野口英世博士と今の自分

猪苗代小学校 4年 高地 雛美



私が住んでいる猪苗代町には千円札の顔になった偉大な人がいます。

私は野口英世について本を読んで学んだことがたくさんあります。そして、野口英世記念館で彼の人生をより詳しく知ることができました。私は野口英世がすごい人だと思ったけれど、残念だと思うことがあります。だから、野口英世と自分について考えてみることにしました。

野口英世の子供の頃の名前は清作で、てんぼうと呼べれからかわれていました。その原因となった出来事に私はとても驚きました。一歳半の時に大やけどをして左手が固まるなんて、とても恐ろしいことだと思いました。そのような状況を作ってしまった母親のシカも、昔から貧しく不幸な人でした。私は清作やシカの貧しいという状況がよく分かりません。怪我をしたり体調が悪い時は、病院に連れて行ってもらえます。着る物や食べ物にも困らないし、自由

### 野口英世博士に関する作文

〈小学校の部・4年生〉

特選

野口英世博士と今の自分

猪苗代小 高地 雛美

金賞

野口英世はか士のように

長瀬小 岩橋 悠誠

「猪苗代で生まれた野口英世」

猪苗代小 大竹 倭央

不自由から学んだこと

翁島小 田中 琉翔

銀賞

野口英世ととく志家

千里小 岩崎 咲茉

野口英世をささえていた母シカさん

緑小 佐藤 駆琉

野口博士のように

吾妻小 武藤 遼真

〈中学校の部・2年生〉

特選

野口英世博士について

猪苗代中 五十嵐梓心

金賞

忍耐

猪苗代中 村澤 心都

銀賞

忍耐

猪苗代中 小松 琉月



に好きなことができます。友達もたくさんいて、いじめられることもなく、学校にも楽しく通えます。もしその時代に私がいたら、いじめられている清作を助けてあげたいと思いました。私と清作には似ている所があります。それは勉強が大好きということ。清作は左手をからかわれた悔しさから勉強を頑張つていじめっ子を見返しています。私は学ぶことが楽しくて勉強をしているので、悔しいから頑張るという気持ちに違いを感じました。もし私が同じ状況だったら悔しさから勉強を頑張っていたとは思えないし、辛くて不安だらけで楽しくないと思います。大変な状況でも頑張つて努力し続けて清作はすごいと思いました。そんな清作にも悪い面もありました。それは、お金の使い方が荒かったことです。私は欲しい物がないのでお金を使いたいという気持ちになりません。だから、清作の悪い面に残念な気持ちになりました。でも、私にも良くないところがあります。反射的に嘘を言ってしまったり何かに集中していると、前の行動を忘れてしまうことです。それに、私は好きな勉強や読書を時間を気にせずやってしまうので、睡眠不足になり、早寝早起きができなくなりました。寝不足だとやる気はあっても集中力がないので思うようにいきません。家族にも早く寝るように言われていたし、生活のリズムを整える努力をしました。今では早寝早起きができるようになり、朝から頭が冴えています。

私は野口英世が努力家ですばらしい人だと思う反面、欠点もある人だと知りました。人間、誰しも良い所も悪い所もあって、完璧な人はいないと聞いていましたが、野口英世を知ること、それがよく分かりました。私は人を助けたり、役に立つことが好きなので、野口英世のように医学の道に進みたいと思うようになりました。これからも大好きな勉強を続けて、野口英世のように世界へ羽ばたけるような人になりたいです。

## 特選

### 野口英世博士について

猪苗代中学校 2年 五十嵐 梓心



私は以前、野口英世アフリカ賞という医学賞を取ったガーナの人が言った、表彰式でのコメントを

読んだことがあります。その中には野口英世博士へのあこがれのコメント、野口英世博士の地元である猪苗代に来たことへの喜びのコメントなどがたくさんありました。私はこのようなコメントを読んで、ガーナ人にとって野口英世博士はスターなのだと思いました。実際にガーナに行つて黄熱病についての研究もして、ガーナを救った人であるからだと思っています。猪苗代町民にとってもスターであるので、猪苗代町民、ガーナの人、両方にとって野口英世博士はスターだと思います。

また、私は次のような話を駐日ガーナ大使の方に聞きました。「ガーナには野口医学研究所という感染症を研究する所があります。開発途上国の中では新型コロナウイルスによって死亡した人の人数が少なかったです」と。野口英世博士の研究の成果は今になつても生かされていて、野口英世博士のおかげでガーナはコロナの死亡者が少なかったのかなと思いました。今でも野口英世博士の影響で人の命が救われているのは本当にすごいと思います。野口英世博士が亡くなってから百年近く経つた今でも、ガーナ人や猪苗代町民に尊敬されていて、今でもその遺志が受け継がれているのは本当にすごいです。

野口英世博士は猪苗代町のシンボルにもなっているし、医者を目指している人のあこがれにもなっていると思います。自分の地元を離れて外国に行き、人の命を救った野口英世博士のような人に私はあこ

がれています。途中で自分も病にかかってしまい、亡くなってしまったのは悲しいことですが、自分のやることを全うしたのだと私は思っています。博士の記念館も作られているし、千円札にもなっていて、もちろん教科書にも載っています。私は母が国際交流協会に入っているため、何度も野口英世記念館には行っています。記念館の中には博士のロボットや、博士のすごさがわかる展示物などがいっぱいあります。子供でも博士のすごさがわかるゲームがあつて、ときどき小さな子を見かけますが、その子はゲームを楽しくやっているし、一方で、難しいとも言っていました。

私が記念館の中で一番すごいと思ったのは、博士の実験の早さがわかるゲームです。私も私の兄弟もプレイしてクリアしたことがないし、それが実際のスポイトと試験管だともっと遅くなると思うし、博士の手際の良さにすごくびっくりさせられました。私には野口英世博士のように素早く実験することができません。

記念館にある博士の家を見たときは、博士が手分けがしたところや博士の身長が分かるパネルがあつて、博士はここで育ったんだなあと思いました。記念館にあるロボットはしゃべっているいろいろなお話を聞かせてくれます。記念館があるから博士は今でもより広く知られていて、体験できるもの、展示物から歴史を知ることができるからこそ、あこがれられ

尊敬されているのだと思います。千円札にもなっていて、全国の人に知られていると思います。千円札が変わってしまうのは悲しいですが、変わったとしても猪苗代、ガーナの人は決して忘れないと思います。

夏休みが終わったら私の家に、医者になりたいという私と同年のガーナの女の子がホームステイに来ます。私は将来の夢が医者でした。今は自分の得意な分野を生かせる別の仕事に就きたいと思っていますが、医者になりたいと思っていたときは博士へのあこがれ、やりがいのある仕事に就きたいという気持ち、医学への興味もあり、医者を目指していました。病気などで困っている人を助けたいとも思っていたし、もっと医学について知りたい気持ちもありました。今でも変わらないのは、やりがいのある仕事に就きたいという気持ちと人々の役に立てる仕事に就きたいという気持ちです。ホームステイに来る女の子は、きっと自分の将来の夢に向かって一生懸命がんばっているから猪苗代町に来るのだと思います。仲良くなつて一緒にたくさんしゃべりたいです。医者になりたいと思つた理由も知りたいし、学級、友達はどうな感じか、ガーナの人は博士をどんなふうと呼んでいて、どのように博士のことを学んでいるのかも知りたいです。同年の外国人の友達は何初めてなのでもうれしいです。

私は野口英世博士を尊敬しています。それはガー

ナの人も猪苗代町民の人も一緒だと思います。私は博士が残した言葉、目的、正直、忍耐を胸に過ごしていきたいです。



野口英世博士顕彰記念少年科学賞・作文コンクール入賞のみなさん



# 野口英世記念館の動向

## 第4回野口英世アフリカ賞 受賞者来館

令和5年3月17日

2023年3月17日、第4回野口英世アフリカ賞の受賞者が野口英世記念館を訪れました。

第4回野口英世アフリカ賞は、医学研究分野がエイズ予防・治療に貢献した南アフリカのサリム・s・アブドゥル・カリム博士とカライシャ・アブドゥル・カリム博士、医療活動分野はギニア虫症撲滅プログラムが受賞し、両博士とギニア虫症撲滅プログラムの主導したアメリカのカーターセンターの.Adam・ジョセフ・ウェイスディレクター、メーガン・クレム・マーツ上級副部長が記念館を訪れました。

記念館では翁島小学校の児童が横断幕と出身国の旗を手に受賞者を出迎えてくれました。

歓迎セレモニーでは倉根一郎当会理事長が挨拶をし、記念館を案内しました。

受賞者たちは賞の由来となった野口英世の生家や愛用品などの展示を見ながら、倉根理事長の解説に耳を傾けていました。

記念館を退館する際にも翁島小学校の児童が見送り、受賞者らは児童と記念撮影や握手をして次の訪

問地である会津若松にむかいました。



記念館を見学する受賞者のみなさん

## 野口英世記念奨学生 奨学生証贈呈式

令和5年4月16日

令和5年度第65期奨学生10名に対する奨学生証贈呈式が2023年4月16日、野口英世至誠館研修室において執り行われました。

当会倉根理事長・八子館長より、新奨学生への激

励の言葉とともに、奨学生証書・記念品が一人づつに贈られました。

新奨学生たちは、気持ちを新たに奨学生証書を受け取り、自己紹介を兼ねて今後の高校生活や将来への抱負を述べました。

第65期奨学生の抱負は、野口英世記念会報第68号でも紹介しています。

奨学生のみなさんが夢の実現に向けて頑張ってくれることを願っています。



奨学生証書を手にする第65期奨学生のみなさん

## 第95回野口英世博士命日祭

令和5年5月21日

野口英世の命日にあたる5月21日に生家前におきまして命日祭が執り行われました。

猪苗代町長、教育長、町議会議長や、遺族代表の二瓶昭氏、当会役員らにより野口英世の冥福を祈りました。

当日は野口家の菩提寺である長照寺の楠恭信住職の読経の後、参列者が焼香を供えました。



読経をする楠恭信住職

## 緑の少年団花苗寄贈

令和5年6月5日

猪苗代町立緑小学校の緑の少年団のみなさんが記念館に花の苗を寄贈してくださいました。

毎年すてきな花を寄贈くださり、生家前に飾られ、来館者の目を楽しませてくれます。

猪苗代町では小学校の統合が行われるため、緑小学校として花を寄贈くださるのは最後となります。これまでの活動に敬意と感謝をするともに、今後も猪苗代町の小学生のみなさんに植物を愛し、大切にする心が受け継がれていくことを願っています。



花苗を寄贈くださった緑の少年団のみなさん

## 野口英世記念館で博物館実習

令和5年7月10日～15日

博物館学芸員の資格取得を目指す大学生による博物館実習が行われました。本年は八洲学園大学生涯学習学科の蜷川真実さんが、延べ6日間の期間の中

で資料管理や展示活動などの学芸分野の実習や、受付業務、広報活動、ミュージアムショップの運営などマネジメントに関わる業務など、短い期間ですが各担当職員がついて博物館活動の一通りの業務を実際に経験し博物館の業務全体を学びました。

実習生が作成した展示パネルは23年度企画展の会期末まで展示され、来館者の目にもとまりました。博物館学芸員の資格取得とともに、今後の社会人としての活動の参考にしていただければと思います。



展示作業をする実習生

## 感染症ミュージアム新展示

令和5年7月25日

野口英世記念感染症ミュージアムも開館から1年が過ぎ、2年目のミュージアムでも多くの方が来場くださり好評を博しています。

感染症ミュージアムの来館者アンケートによると、小学生には少し難しい内容であるのご意見を頂戴し、今後の課題として、改善をしていきたいと思い



ますが、そのほかの展示内容などは概ね好評の声をいただき、野口英世記念館を目的にみえられた来館者が感染症ミュージアムにも回られる方が多く、二館を見ることでより深い学びをしてくださる姿が多くみられました。

感染症ミュージアムでは展示の充実を図るため、国立感染症研究所名誉所員の宮村達男氏より寄贈いただいた2点の資料を新たに第1室に展示しました。福田青陽作「ルイ・パスツールレリーフ」はジョルジュ・アンリ・ブリュダム作のメダルのモチーフをレリーフに模作したもので、新潟大学医学部細菌学教室第三代教授の宮村定男博士が旧蔵していたものです。パスツールの横顔と葉の生い茂る枝がモチーフとなっています。



パスツールレリーフ

「ローベルト・コッホ直筆サイン」は1932年に発行されたドイツの医学雑誌のコッホ記念号の付録として掲載されたプロマイドに、コッホ直筆の書類から切り取られた直筆サインが貼り付けられ額装されています。このサインは新潟医科大学細菌学教室教授の宮路重嗣博士が旧蔵していたものです。



コッホプロマイドと直筆サイン

2点の資料は、感染症ミュージアム第1室の近代医学の黎明期を象徴するふたりの偉大な科学者にゆかりの資料として展示に華を添えています。（展示の様子は本号表紙に掲載）

## 救世観音祭礼

令和5年8月9日

記念館中庭に祀られる観音堂の救世観音（一葉観音）の祭礼が8月9日に執り行われました。

野口家菩提寺の長照寺・楠恭信住職の読経の後、三城潟御詠歌護持親睦会のみなさんにより、中田観音の御詠歌と一葉観音の御詠歌が詠じられました。

この救世観音は、観音様への強い信仰心をもっていた英世の母シカのために、やけどを負わせてしまったシカの心を慰める目的で建立されました。昭和14年の記念館の開館の年に曹洞宗永平寺68代泰慧昭禅師により一葉観音の開眼供養が行なわれました。



御詠歌を詠じる三城潟御詠歌護持親睦会のみなさん

## ガーナ高校生来館

令和5年8月29日

ガーナよさこい支援会が日本に招待したガーナの高校生が野口英世記念館を訪れました。

記念館では八子館長の案内により館内を見学し、ガーナとのゆかりの深い野口英世の生涯を学びました。

高校生たちは原宿表参道でのスーパよさこい祭りではよさこいを披露したのち、猪苗代町を訪れ、記念館のほか町長への表敬訪問、農業視察、猪苗代高校での交流、会津大学見学、ホームステイなどたいへん充実した研修を行いました。



記念館を訪れたガーナ高校生

## 第147回野口英世博士誕生祭

令和5年11月9日

野口英世の誕生日である11月9日に誕生祭が執り行われました。新型コロナウイルス感染症の流行により昨年まで規模を縮小して開催していましたが、本年は通常規模での開催となりました。

野口家菩提寺の楠恭信住職の読経の後、関係者が献花を捧げました。また、今年は野口英世の後輩にあたる翁島小学校の児童のみなさんが唱歌「野口英世」を披露してくださり、多くの人で野口英世の誕生を祝いました。



唱歌「野口英世」を歌う翁島小学校の児童

## 野口英世生家で年中行事を体験

令和6年1月10日 団子さし  
令和6年2月2日 節分豆まき

野口英世の後輩にあたる翁島小学校の1学年、3学年の児童が生家で年中行事を体験しました。

団子さしではみずきの枝に赤白黄緑の団子や縁起物を飾り、五穀豊穡を祈りました。団子さしは2月までかざられ、来館者の目を楽しませました。

節分豆まきでは鬼にむかって豆を投げる児童の元気いっぱいの声が生家に響き渡り、野口英世記念館にもたくさんさんの福が招かれました。

猪苗代町では令和6年3月に小学校の統合が行われ、野口英世の母校の後身である翁島小学校も閉校



力いっぱいおに退治



きれいに飾り付けてくれた翁島小学校児童

することになります。これまで記念館の行事などに協力してくださった翁島小学校のみなさまに感謝申し上げます。



# 黄熱病原体をもとめて

## 中南米遠征100年

2023年は、野口英世が黄熱の研究のためブラジルを訪れて100年の節目の年にあたります。

野口英世記念館では2023年度企画展として「黄熱病原体をもとめて 中南米への遠征」を開催いたしました。野口英世が中南米を訪れて一世紀たった今でもエクアドル、メキシコ、ペルー、ブラジル各国では来訪100年を祝い顕彰事業が行われております。ここでは各国で行なわれた顕彰事業について報告いたします。



企画展「黄熱病原体をもとめて 中南米への遠征」

### エクアドル共和国

黄熱研究のために初めて訪れたのは、赤道直下の国エクアドル共和国でした。野口は一つの病原体を見つけ「黄熱病原体」とであると発表しました。この病原体から作られたワクチンによりエクアドルでは多くの命を救うことができた大きな称賛を浴びます。

この野口が見つけた病原体は、現在では黄熱ではなくワイル病の病原体であると考えられています。野口は残念ながらワイル病病原体を黄熱病原体と誤認しましたが、ワクチンの開発により当時多くの人命を救うことができたことは、野口の功績として挙げられます。

野口が来訪した1918年はエクアドルと日本の外交関係が樹立した年でもあり、野口の存在が2国間の外交交渉をスムーズに進めた要因でもあるといわれています。

2018年には野口英世上陸および日本エクアドル外交関係樹立100周年を記念し、エクアドルの首都キトやグアヤキルにおいて記念行事が催されました。

グアヤキル市立博物館においては現地に残される

当時の新聞記事や当会提供の情報をスペイン語に翻訳したパネルで野口英世の生涯が紹介されました。エクアドルにはキトやグアヤキルに野口英世の名前の通りや胸像が残されており、今回の100周年を記念しグアヤキル市の観光地であるマレコン2000地区にあらたに胸像が建立されました。



グアヤキル市立博物館での野口英世展

### メキシコ合衆国

1919年野口が黄熱研究のために訪れたのはメキシコ合衆国でした。

メキシコではロックフェラー医学研究所の同僚であるクリーグラが先行し、研究の準備を行い、英世はユカタン半島のメリダを拠点に研究を行いました。





メキシコ日墨会館で行われたパネル展

到着当時黄熱は小康状態でしたが、先行したクリーグラの集めた資料によりエクアドルのものと同じ病原体を見つける成果が上がりました。野口はユカタン医科大学より名誉医学博士の称号が贈られ、首都のメキシコシティに移ると盛大な歓迎を受け、現地医学者らと公開実験などの医学交流を行いました。メキシコではメリダのオーラン病院に吉田三郎作野口英世立像や「野口英世記念生物医学研究センター」（現野口英世博士地域研究センター）が設立され現在でもその栄誉が称賛されています。

来訪100年を記念して、在メキシコ日本大使館や在留邦人らで組織する日墨協会の協力により20

18年には日本よりツアーが生まれ100周年プレイベントが開催され、翌2019年には前年の参加者らにより野口英世記念館において100周年記念イベントや、野口英世の生誕日の11月9日にはメキシコシティの日墨会館においてパネル展示会と講演会が行われ、メキシコ駐在の日本家族らが野口の功績を称えました。

### ペルー共和国

1920年5月には中南米3か国目のペルー共和国を来訪し、北部の港町パイタからピウラに入り、ここを拠点に同僚のクリーグラと合流して研究を行いメキシコ同様に成果を上げました。

野口は近隣の村で黄熱と思われる患者が出たと知ると、約1時間半の道のりを馬で向かいましたが、その際に落馬をするというアクシデントにも見舞われました。

首都リマでは研究の成果をスペイン語で講演し、アグスト・レギア・ペルー大統領の歓迎や、リマ大学医学部名誉教授の称号を授与されました。

また、アメリカに戻ったのちは、ペルーでの長年の懸案であった風土病オロヤ熱とペルー瘧の二つの病原体が同一のものであることを証明したことは大きな功績となりました。

1920年の野口英世来訪から100年を記念して、リマ大学ロベルト・シマブク博士や野口の名を



ペルーリマ市で開催された野口英世写真展

冠した私立学校で、猪苗代町の翁島小学校とも交流を行っていたヒデヨノグチ学園のファナ・ミヤシロ校長が中心となり写真展を開催することになり、当会からも画像やパネルなどを提供いたしました。2020年3月4日に駐ペルー日本大使や現地の日系人などにより開幕を祝うオープニングセレモニーが行われました。しかし、折からの新型コロナウイルス感染症のペルー国内での感染拡大により翌5日より外出制限がペルー国内に出され、写真展も一日で終了となりました。



## ブラジル連邦共和国

1923年、ブラジルのバイア州周辺で黄熱の流行が確認されましたが、現地の研究者には野口が他の国で見つけた病原体を見つけることができず、野口の研究に疑問や批判を唱える研究者が現れました。野口はこれらの声に應えるため11月にブラジルに向かいました。

バイア州の首都サルバトールにあるバイア医科大学とオズワルド・クルズ研究所バイア支部で研究を開始しましたが、到着したところはバイアでの黄熱は小康状態となっていたため、近隣の村などに調査の範囲を広げ患者の排泄物からエクアドルで見つけた病原体と同一のものを見つけ出すことができませんでした。

野口は3カ月の研究成果をバイア医科大学教授会で報告しました。その際には実際に研究者の前でデモンストレーションを行い、現地の研究者に実験方法や研究方法などを伝え、ブラジルを離れる際には当時高価であった研究道具を今後の研究発展のためにそのまま残しブラジルを後にしました。

ブラジルには古くから日本から多くの方が移民されたこともあり、ブラジル福島県人会が野口英世の顕彰を行っています。

ブラジル移民50周年を記念し、1967（昭和42）年にカンピーナス市に野口英世の胸像が建立され、その周りは「野口英世広場（記念公園）」としてブラジル・日本両国の友好の証となっています。

また、ブラジル福島県人会では来伯100年を記念して2023年6月3日に記念講演会が開催されました。日系移民史研究家の池田マリオ氏が野口英世の業績とともに野口のブラジルでの足跡を収集した資料から報告しました。池田氏は子どもの頃に祖父から「やけどを乗り越えて世界的に有名な学者になった野口英世のように逆境を乗り越える覇気が必要である」と言われたことが幼心に残り、その言葉を胸に勉学にいそしんだことが人生を変えた、と野口英世から大きな影響を受けたことを講演で語りました。



ブラジル野口英世来伯100年記念講演会（ブラジル日報より）

野口英世が中南米の各国で研究を行ってから100年がたつ現在においても現地でも多くの人が野口英世に想いを寄せています。

野口英世が黄熱という現地での課題を解決するため、感染のリスクがある中、実際に現地に行つて研究を行ったことや、その滞在中で現地の人々との交流を行うことで、現在まで続く絆が結ばれました。各国・各地で野口英世の顕彰に尽力下さる諸団体・個人のみならず、この場を借りて御礼申し上げます。今後も野口英世が結んだこの絆を大切にし、野口英世の顕彰を通して各地との交流を深めていきたいと思っています。



エクアドル ヒデオノグチ小学校の児童たち



# 野口英世生誕150年に向けて 記念会のアウトリーチ活動

2026年は野口英世が誕生して150年の節目の年に当たります。この記念すべき年に向けて、野口英世記念会ではより多くの方にあらためて野口英世を知ってもらう活動として各地を巡回する巡回展を行っています。

## 野口英世巡回展

令和5年度は熊本県阿蘇郡小国町で巡回展を開催しました。

野口英世記念巡回展は野口英世記念館から遠方の地でパネルを中心とした展示や講演会を行うことであらためて野口英世を知っていただく企画です。

今年度は北里柴三郎の生誕の地である熊本県阿蘇郡小国町の北里柴三郎記念館ならびに運営する一般財団法人学びの里にご協力いただき、2024年2月18日(日)～3月3日(日)の延べ15日間、北里柴三郎記念館のセミナー室を会場に開催いたしました。

野口英世の生涯とともに2024年7月には新紙幣の発行も控え、注目されるふたりの師弟の関係を紹介するパネルを追加して展示しました。

北里柴三郎記念館は、このたびの新千円札発行に

より近年来場者数も増加し会期中も団体旅行や家族連れの来館者が多くみえられていました。野口と北里柴三郎の二人が師弟関係にあることを知らない方も多く、パネルをご覧になる中で、二人のゆかりを



北里柴三郎記念館に立つ胸像



北里柴三郎記念館での展示の様子

知っていただくことができました。

あわせて、開幕の2月18日(日)には隣接する学びの里木魂館の大会議室で講演会「野口英世―人類のために―」(講師・当会学芸員)を開催しました。

講演会では展示パネルでは紹介しきれなかったふたりのエピソードも交え、特に野口英世の語学力に注目した北里柴三郎が世界に羽ばたくための機会を準備してくれ、そのおかげで野口は海外への扉を開くことができたことをご紹介しました。

今後も各地で巡回展を開催し、多くの方にあらためて野口英世を知っていただく機会を作っていくたいと思います。



## 学校パネル展

子どもたちを対象に各学校の空き教室を利用して野口英世の生涯を紹介するパネル展を開催いたしました。学校や自治体教育委員会に協力いただき、管轄内の学校でパネルを巡回いただき各校1〜2週間の期間展示をしてもらい、授業の時間や休み時間などに観覧していただきました。

見学の際にはワークシートや、DVD「黄熱病との闘い 細菌学者野口英世」の映写などで理解を深められるようにしています。

令和5年度は2市の教育委員会のご協力により5校でパネル展を実施いただきました。

各教育委員会、学校関係者のみなさまにはご協力いただきありがとうございました。

茨城県石岡市教育委員会

石岡市立高浜小学校

学校より見学の時の写真を提供いただき、児童のみなさんが真剣にパネルをみて野口英世を深く知ろうとしてくださる姿が見られました。

高浜小学校は学校統合のため2024年3月で閉校となるため、この野口英世学校パネル展が児童のみなさんの高浜小学校での思い出の一つになれば幸いです。



石岡市立高浜小学校の様子

群馬県館林市教育委員会

館林市立第十小学校

館林市立第九小学校

館林市立美園小学校

館林市立第七小学校

館林市教育委員会のご協力により管内4校のパネル巡回展を実施いたしました。

各学校の空き教室でパネルを展示くださり、各教室でDVDを放映してくださる学校や、パネル展の同じ教室で自由にDVDが見られるようにして下さる学校など、各校工夫をして展示して下さいます。

した。

この館林市のパネル展では、上毛新聞が取材をしてくださり、11月9日付の上毛新聞で、館林市立第十小学校でのパネル展の様子が写真付きで紹介されました。

また、館林市立第七小学校では、地域のみなさんが学校を訪れることができるようになっていて、事前に学校通信でパネル展の開催を告知くださり、ご家庭や地域のみなさんにも展示を観覧いただくことができました。



館林市立第七小学校の様子

今後もより多くの子どもたちに知っていただくために教育委員会や学校のご協力を仰ぎながら実施していきたいと思えます。

# 第22回心の手紙コンテスト「母から子への手紙」

「あなたに伝えたい思いがある」



お手紙を朗読する大賞受賞の上島直美さん

令和5年12月3日（日）第22回心の手紙コンテスト「母から子への手紙」の表彰式が猪苗代町体験交流館「学びいな」において行われました。今年は1151編の想いのつまったお手紙が全国のお母さんたちから寄せられ、大賞、準大賞、日本郵便賞各1編、優秀賞7編、佳作40編の計50編の入賞作品が選ばれました。

表彰式には、全国から入賞者の方が出席され、大賞を受賞した上島直美さんにより手紙の朗読が行われました。記念館でも大賞など10編のお手紙をご覧いただけます。

## 大賞 上島直美さん（埼玉県）

今年も完全無視でしたね。5月にある、あの日、カーネーションが街にあふれる、あの日です。外を歩けば、カーネーションを抱えた子どもたちの姿、スーパールに行けば「お母さん、ありがとう」と、バックの上に貼られたシール。それを見るたびに「はい、はい。うちは母の日は無いんだよ」と拗ねながら、でも帰ったらカーネーションあるかな…とか期待もしながら…結局何もなくて、いつもより力を込めてかき混ぜた納豆を乗せたご飯が心に染み込めたのを思い出します。

モヤモヤ解消に本でも読もうと本棚を見ていたら、保育所に行っていたころのノートが出てきました。バラバラとめくってみたら、そこには「おかあさん ありがとう」の言葉が。何度も、何度も。字の練習のために選んだのが「あかあさん ありがとう」だったんだね。そうか、だから私には「お母さん、ありがとう」は無いのね。既に一生分の「おかあさん ありがとう」が、そこにあったから。





大賞 上島直美さん



準大賞 中澤ひろみさん



日本郵便賞 浅見文子さん



表彰式の様子

## 準大賞 中澤ひろみさん（群馬県）

健斗さん、あなたは最高の（娘の）夫で、（孫の）パパです。娘が出産時に緊急搬送され一ヶ月生死をさまよったとき、生まれたばかりの赤ちゃんを「僕が育てます」と宣言。オムツもミルクも入浴も本当によく頑張りました。娘が退院してからは、もつと大変でしたね。大量に輸血した娘は母乳を禁じられ、心臓マッサージで胸骨を骨折したため赤ちゃんを抱くこともできない。そんな自分を責めて、強度の産後鬱になりました。「私なんかどうせだめママだと思ってるんでしょ！」と泣きわめく娘、治療の後遺症で全身痙攣だらけの身体を見られたいと人目を避ける娘は親さえ途方にくれる腫れ物でした。健斗さん、辛かったですよう、ごめんなさい。

娘が身体と心を回復できたのは、健斗さんの愛情と赤ちゃんの成長のおかげです。文君は誕生日前に歩き出した元気な男の子です。今日も「パパがいい」と肩車や超高い高いをねだっています。文君、パパは最高だね！

## 日本郵便賞 浅見文子さん（愛知県）

兄を追いかけて走り回っていた六歳の夏、君は突然病魔に襲われた。ネフローゼ症候群の中でも「巣状糸球体硬化症」という難病。大学一年の夏、私から腎移植を受けるまでは、聞くも涙語るも涙のドラマがあったね。

厳しい塩分と水分、運動の制限。薬の副作用で顔はパンパンになった。小康状態になっても常に再発にビクビクし、一旦入院となるとしばらく家へ帰れない。高校一年の時には四ヶ月程寝た切り状態になった。十六歳で下を取ってもらおうという屈辱にも耐えた。また、家庭での腹膜透析も経験した。毎晩三〇ℓの透析液交換が、当時の君の命綱だったね。

どんな状況下でも、泣き事も言わず現実を受け入れた君を母は誇りに思う。苦難を乗り越えて来た分、誰より幸せになれるといいな。まだ闘いは続くけれど、病気とはうまく付き合いつつながら長生きしてね。

この秋、君は誰より強くて頼もしい父となる。楽しみだね！嬉しいね！幸せだね！



# 子どもは神様からのプレゼント

第21回 母から子への手紙コンテスト 大賞受賞者 平田みさ子

母から子への手紙コンテストを通して、私は野口英世の母シカの手紙を知り、息子を慕う母の気持ちに深い感銘を受けました。手紙をじっくり味読するうちに、私の心に、娘達の成長の様々な思いが溢れてきて、上手く表せるかと戸惑いながら綴り、応募させて頂きました。賞を頂けるとは、夢にも思いませんでした。受賞を知った時は「えっ、本当なん?」と、家族と留守電をきき、メールやホームページを何回も開いて確認しました。実家や親しい友人にも知らせました。今、病床にいる父が、その時は自宅の車椅子で聞いた時の、座ったまま涙をばろばろ流す姿が、私の目に焼き付いています。受賞を知らせた友人から数日後「あなたの文章を読んで、久しぶりに離れて暮らす娘の誕生日にラインしたよ。それしたら『生んでくれて有難う』の返信がきた。」と、話して下さいました。職場からも、温かい言葉を頂きました。受賞を自分の事のように喜んで下さる事に、賞を頂いたという実感がじわじわと心に湧いてきました。受賞を通して、私や家族を傍らで見守り、

助けて下さる方がおられた事を改めて感じました。また、授賞式に参加させて頂き、雄大に聳える磐梯山や、猪苗代湖に沿うように映る夕陽も見ることが出来ました。授賞式に参加された方と交わした挨拶やことば等、心に残る体験をさせて頂き、関係者の皆様に誠に御礼申し上げます。



母から子への手紙表彰式での平田みさ子さん

さて、野口英世については記念館で、今まで知らなかった生涯を学びました。見学して、野口英世の背後には、10代の頃から支え励まし、尊敬できる恩師やご友人がおられたという事を知りました。そして、母シカが1歳で火傷を負った息子を、幼少期から勇気づけ、希望を与え続けたという事に感動しました。母シカのように私も子ども達の心に励ましを与える者になりたいと思いました。

母から子への手紙では、長女の事を書かせて頂きましたが、私達夫婦は3人の娘を授かりました。子ども達は全く違ったものを持って生まれてきてくれました。3人の娘を育み、携わる中で子ども達から教えてもらった事を書き記したいと思います。

母から子への手紙に書かせて頂いた、長女が生後5、6か月の頃の事は、私にとつ



て、初めての体験でした。泣きやまない我が子に、正直、疲れていました。近隣の方との関わり、差し入れを下さる事等がなかったら、2人で孤立してしまっていたかもしれません。愛のある関わりは、私が、長女の成長を長い目で見ていけるようにしてくれました。目の前の事しか見れていない時、苦しくて辛いときかと思えませんでした。でも、私を母として選び、ひとりひとりの子どもに神様が特別なものを授けて下さっていると思った時、随分、気持ちが楽になりました。長女は、抱いて鼻歌を歌ってもらうと「あーあ」と声を出してくれる事があり、歌っているようでした。幼少期には児童聖歌隊に入り、コンサートホールや老人ホーム、商業施設などに歌声を届けました。受賞後、長女に「赤ちゃんの時、夕方になると泣いていたの、あれで歌ってたんかなあ」と話すと、目を瞑り「そうだったかなあ」と、笑顔で話してくれました。長女は祖父母の様子を見に行ってくれる、家族友人思いの温かい子に成長しました。

次女は少しのミルクで眠ってしまい、2時間程で目を覚ます赤ちゃんでした。あやすとすぐに眠り、泣いても抱くと泣き止んでくれました。幼少期は発熱が続き、入院治療しました。私が引越しの片付けをしていた時、次女から受けたひと言を思い出します。床に落ちていた埃を見て「これ、ひかりの『ひ』に似てる。」と、自分の名前の文字を見つけたと、嬉しそうににこの笑顔で話してくれた事がありました。作業に追われていた私の物の見方を変えてくれて、ゆったりと片付けようという気持ちにさせてくれました。次女は20歳を過ぎた今、絵を描く事と語学の好きな知的な子に成長しました。

三女はよく眠る赤ちゃんでした。いつも姉達の歌声やお喋りに囲まれていました。文字が読める様になるとゆつくりと絵本を読んで聞かせてくれる様になりました。三女の声とテンポは、聞く人を、ほっとさせる心地よいものでした。今、三女は、大学で街づくりに興味を持って学んでいます。ひょうきんで、周りを明るくする子に成長しました。

子どもは神様から私達に相應しいとして託されたプレゼントです。

よく病気をする子は、人の痛みが分かる子に成長するんじゃないだろうか。よく怒っている子は、自分の考えをしっかり持つ子に成長するんじゃないだろうか。おっとり、ゆったりしている子は、人の気持ちがよくわかる子に成長するんじゃないだろうか。よく動く子は、健康で明るい子に成長するんじゃないだろうか。そう思うと全

く違ったひとりひとりの子どもにしかないものが愛おしく、将来が楽しみになりました。

私達夫婦に神様が3人の子どもを授けて下さった事の感謝を、これから少しずつしていきたいです。





# 出前授業に行きます！

野口英世記念館では、修学旅行で野口英世記念館の見学を予定している小・中学校へ、あるいは野口英世の生涯と業績を教育活動に生かしていこうとする学校へ出向いて、分かりやすくお話しする出前授業を行っています。

令和5年度は、これまでで最高の220校の皆さんに出前授業を行いました。いずれの学校でも、児童・生徒の皆さんが熱心に話を聞いてくださいました。

たくさんいただいたお礼の手紙の中から9通、記念館へのお礼の手紙を1通と宮城県仙台市立宮城野小学校の取組をご紹介します。

宮城県仙台市立南材木町小学校 6年

高橋 二瑚さん



驚いたことが二つあって、左手を大火傷したことで、小さい頃の名前が違っていたことです。

自分の命より、他の人の命を大切にしているところが私は一番感動しました。貧乏だったし、小学生の頃にいじめられていたのにも関わらず負けない気持ちですごいなと思いました。私も強い心をもちたいなと思ったし、勇気もてました。

先生がみんなに左手のことを話すと、みんなが心配してお金を集めてくれたところに、すごく感動しました。野口英世のことをもっと知りたくなったし、このお話を忘れずに野口英世記念館に行きたいなと思いました。

宮城県仙台市立田子小学校 6年

黒澤 円花さん



先日はわざわざ福島から宮城まで来て、野口英世のことを教えてくださりありがとうございました。

野口英世のことは、何となくでしか知らなかったのですが、色々と学べてよかったです。英世はとても努力家で、左手のなやみをかかえながらも勉強をがんばり、「志を得ざれば再び此地をふまず」と、固く決心できる人なのだと知りました。周りに止められても、人々のためならすぐに動く、とても勇かんだと思いました。勉強や研究を続けていく中で、色々な先生に出会い経験を重ねていったから、今の野口英世があるということが印象に残っています。

先日は、遠い所から来てくださりありがとうございました。おかげで野口英世のことがよく分かりました。



メッセージの『目的・正直・忍耐』を忘れずに、  
残りの一年間を過ごしたいと思います。

宮城県仙台市立南小泉小学校 6年

阿部 美咲さん



先日は、福島から宮城まで来てお話を聞かせてくれてありがとうございました。

野口英世は、すごい病気を治した人とは思って  
いなかったけれど、左手をケガしていじめられ、見  
返したくなって医者になったと思いました。そして  
黄熱病を研究してワクチンをつくり、たくさんの人  
を助けました。世界中のニュースになるほどすばら  
しいことをした人だと知り、これは選ばれし人間に  
しかできないことではなく、がんばって努力をたく  
さんすれば、誰でも“実”（み）になるというこ  
とが分かりました。そして「私の夢もそう遠くはな  
い」と、再び思えるようになりました。

本当にありがとうございました。

今度は、記念館でもっとくわしく知りたいです。

宮城県登米市立西郷小学校 6年

高橋 歩楓さん



先日は、私たちのために会津若松の方から来てく  
ださり本当にありがとうございました。

お話が分かりやすく野口英世の人生を知ることが  
できて、とても勉強になりました。お話を聞く前は  
インターネットで調べたりしたけど、それほど深く  
知っていたわけではありません。しかし、恩人の小  
林栄先生や血脇守之助先生、家族に支えられていた  
のだと分かりました。なかでも、お母さんのシカ  
らの手紙に感動しました。

人類のために命をかけて、医者になるために「志  
を得ざれば再び此地を踏まず」と書くほどの覚悟が  
すごいと思いました。危険な研究や夜遅くまで勉強

したり、ノーベル賞のこうほに三回もなったりする  
など、短い人生の中でたくさんのごいことをして  
いてお札になる理由が分かりました。

今回のお話で、ネットでも調べられなくわしい  
ことがたくさん知れてよかったです。

宮城県富谷市立明石台小学校 6年

清水 彩花さん



先日は、野口英世について分かりやすかつい  
ねいに教えてくださり、ありがとうございました。

私は野口英世の一生について知った時、野口英世  
の強さにおどろきました。特に強い人だと感じた場  
所は、「黄熱のことは自分で結末をつけないければい  
けない」と、自分が黄熱にかかって死ぬ可能性のあ  
るところに、周りの反対を押し切ってアフリカへ向  
かっていくところです。自分一人ではなく、少しで  
も多くの命を優先する野口英世の人物像にあこがれ

の意を持ちました。

そして野口英世の周りには、いつもたくさんの支えてくれる人々がいたことも、野口英世の強いところだと感じました。今回のお話を聞いて最も大切だと思ったのは努力です。野口英世はたくさんの努力の末にこのような功績を残しました。私もたくさんの努力をして、自分も他人も幸せな社会に少しでもしていきたいです。

先日は、本当にありがとうございました。



宮城県富谷市立成田東小学校 6年

大谷 心美さん

先日は、野口英世についていろいろなことを教えてくださりありがとうございました。

私は前に野口英世のことを調べたことがあり、野口英世がどのように育ったかなどを調べていました。しかし今日、野口英世のことを説明していただき、もっとくわしく野口英世のことが分かりました。

左手を大やけどし、学校でいじめられてそれでも

がんばって勉強をして、野口英世は本当に努力家だなと感じました。そして野口英世の短所は、お金の使い方という話は知らなかったのでびっくりしました。

大変な思いをしている人たちのためにがんばり、世界でも活躍した野口英世をたくさんの人に知ってもらいたいと思いました。



宮城県気仙沼市立松岩小学校 6年

小野寺 美吹さん

先日は、野口英世のことについて教えていただきありがとうございました。

お話から、野口英世の人生がくわしくわかりました。特に印象に残っていることは、野口英世の勉強への熱心さです。多くの人を救うためにたくさん研究をして、命をかけることは簡単にはできないことだと思います。そして、野口英世を支えた先生方

も、私はすごいなと思いました。

十年もかかる試験を一年で合格するのも、ワクチンを早く完成させたのも努力のおかげです。

東京にでたり、アメリカに行ったり、命をかけてでもアフリカに行くというのは、野口英世のまっすぐな性格もあったと思います。だから私も、たくさん努力をして実を結ぶようにしたいです。

今日は本当にありがとうございました。



新潟県新潟市立上所小学校 6年

森山 琴遥さん

先日は、お忙しい中来ていただきありがとうございました。

私も自主勉強で野口英世の人生について勉強したのですが、あまりくわしく調べられなかったのでお話を聞けてよかったです。

特に印しように残った話は、やけどをして左手が使えなくなったことです。野口英世は科学者(医者)



だから両手が使えるのかと思っていたけれど、左手がほぼ使えないことを知りとても驚きました。左手が使えないのに科学者（医者）になれてすごいなと思いました。たくさん勉強し、いじめなどたくさん  
の事を乗り越えてみんなに認められる。そして与えられた仕事はきちんとするという、日頃からの行いで有名な科学者（医者）になれたことがとてもよく分かりました。

野口英世の良いところだけではなく、欠点や、野口英世を支えてくれた人、人生など様々なことを短い時間の中で分かりやすくくわしく教えていただきました。

今回は、本当にありがとうございました。

新潟県新潟市立亀田小学校 6年

須貝 和奏さん



紫陽花が花開く梅雨の季節となりました。

先日は、野口英世についてくわしく、分かりやす

く教えてくださり、ありがとうございました。この  
出前授業を通して、野口英世が「偉人」といわれる理由や、野口英世がどのような人生を歩んできたのかがよく分かりました。

また、野口英世はつらい過去も苦しい経験も乗り越えながら、自分の好きなことを見つけ、強い願いを胸に一生懸命努力していたんだと感じました。

そして、野口英世という科学者は、何人もの人の命を救った偉大な人物だということを、改めて実感することができました。

今回の話を聞き、野口英世のことをさらに知ることができ、野口英世記念館に行くのがより楽しみになりました。

私たちのために、すてきなお話をしてくださりありがとうございました。



宮城県仙台市立宮城野小学校 6年

駒木根 結心さん



野口英世記念館の皆様、六月三十日に修学旅行の研修で大変お世話になりました。スムーズに見学することができ、全員がとても楽しそうな表情を浮かべていました。

私たちは、今回の修学旅行で「努力の積み重ねは成功につながる」と、いうことを学びました。野口英世記念館の展示物で、野口英世の性格や業績を知りました。野口英世はどこまでも研究熱心で、今まで積み重ねてきた努力を元に結果が出ているのだなあと感じました。

また、幼い子でも楽しめるようなロボットやパネルゲーム等の展示物があり、とても工夫されているなと思いました。

私たちの修学旅行が学び多きものとなるようにお力添え頂き一同感謝申し上げます。

誠にありがとうございました。

## 仙台市立宮城野小学校 六年生

# 「総合的な学習の時間の取り組み」について

仙台市立宮城野小学校 教諭 小林 桂子

本校では、令和二年度から六年生の総合的な学習の時間に「人から学び、なりたい自分へ」というテーマで取り組んでいる。昨今は自分の将来の夢が持てないという子供たちも多く、情報が豊富すぎるがゆえに、必要な情報や自身にとって有益な情報を選びにくいという課題も挙げられる。

そこで、子供たちの身近な社会である学校や、学校に関わる「人」との出会いを通して、自身の目標を定め、「なりたい自分探し」を行う取り組みを実践している。子供たちの講師となる方の職業背景は様々である。

令和五年度の講師は、六年生のメイン行事である修学旅行先で関わっていた方々を始めとし、宮城野小学校を卒業して活躍しているシンガーソングライターの伊東洋平さんや、地元のプロ野球チームのアカデミーコーチである古川翔輝さん、そして、仙台の七夕祭りに和紙の提供をしてくださる鳴海屋紙商事の鳴海幸一郎さんなど、多岐に渡る。

その中でも、修学旅行で訪れる野口英世記念館の出前授業では、子供たちと一緒にお話を聞いていた本校職員も大きな感動を覚えた。野口英世氏の人物像に触れるのみでなく、その生涯を語り継ぐという講話を通じ、記念館職員の方の熱意や使命感も感じることができたからである。そして、修学旅行当日は、実行委員の子供たちが考えた「ふ（深める）・く（悔いなく）・し（しっかりとあいさつ）・ま（学ぶ）」のテーマの下、一人一人がめあてを持って活動した。自主研修先でお世話になった方々や宿泊したホテルの従業員さん、旅行に同行していただいた添乗員さんにもご自身の仕事についてのお話を伺い、歴史や地域についての学びと共に、将来について考える機会を得られた二日間となった。

また、学区内の市民センターとの連携も、総合的な学習の時間の中で行っている。子供たちなりに地元の課題を見付け、地元を良くするための取り組みや、地域の皆様に喜んでもらえるような取り組みを考える活動である。その中でここ数年、市民センターを訪れた方々から好評をいただいているのが「アンブレラスカイ」という取り組みである。これは、置忘れのビニール傘をリサイクルし、子供たちが、見た人が明るい気持ちになるデザインを施す。一月中旬ごろには、およそ四十本ものあざやかに色付けられたリサイクル傘が、市民センターの一角を彩る。

情報にあふれる社会であるからこそ、人と直接出会い、直に聞くお話の中から気付き、出会いの時間の中での空気感から学ぶ意義は大きいと感じる。自分の耳で聞き、自分の目で見ることの素晴らしさを子供たちにも感じてもらいたい。そんな思いで、今日も宮城野小学校では、「人」から直接学ぶ実践が続いている。



出前授業の様子



# 令和5年度に出前授業を行った学校は次の通りです。

## 福島県

### 福島県

会津若松市立東山小学校  
会津若松市立松長小学校  
いわき市立宮小学校  
白河市立小田川小学校  
伊達市立大田小学校  
田村市立船引小学校  
中島村立滑津小学校  
二本松市立旭小学校  
塙町立塙小学校  
福島市立大笹生小学校  
福島市立庭坂小学校  
三島町立三島小学校  
矢吹町立三神小学校  
桜の聖母学園小学校

## 宮城県

石巻市立鮎川小学校  
石巻市立飯野川小学校  
石巻市立石巻小学校  
石巻市立大原小学校  
石巻市立鹿妻小学校  
石巻市立鹿又小学校  
石巻市立釜小学校  
石巻市立北村小学校  
石巻市立住吉小学校  
石巻市立貞山小学校  
石巻市立中里小学校

石巻市立中津山第一小学校  
石巻市立広瀬小学校  
石巻市立万石浦小学校  
石巻市立湊小学校  
石巻市立桃生小学校  
石巻市立寄磯小学校  
石巻市立和渕小学校  
大崎市立田尻小学校  
大崎市立沼部小学校  
大崎市立古川第一小学校  
大崎市立古川第三小学校  
大郷町立大郷小学校  
加美町立鹿原小学校  
加美町立鳴瀬小学校  
加美町立西小野田小学校  
加美町立東小野田小学校  
加美町立広原小学校  
川崎町立川崎小学校  
栗原市立鶯沢小学校  
栗原市立築館小学校  
気仙沼市立面瀬小学校  
気仙沼市立気仙沼小学校  
気仙沼市立鹿折小学校  
気仙沼市立津谷小学校  
気仙沼市立松岩小学校  
蔵王町立遠刈田小学校  
蔵王町立永野小学校  
塩竈市立第一小学校  
塩竈市立月見ヶ丘小学校

塩竈市立杉の入小学校  
七ヶ浜町立汐見小学校  
柴田町立柴田小学校  
柴田町立東船岡小学校  
柴田町立船迫小学校  
白石市立白石第一小学校  
白石市立白石第二小学校  
仙台市立旭丘小学校  
仙台市立愛子小学校  
仙台市立荒巻小学校  
仙台市立市名坂小学校  
仙台市立岩切小学校  
仙台市立折立小学校  
仙台市立桂小学校  
仙台市立鹿野小学校  
仙台市立上杉山通小学校  
仙台市立加茂小学校  
仙台市立川平小学校  
仙台市立北仙台小学校  
仙台市立北中山小学校  
仙台市立木町通小学校  
仙台市立国見小学校  
仙台市立黒松小学校  
仙台市立立黒松小学校  
仙台市立立幸町南小学校  
仙台市立桜丘小学校  
仙台市立将監小学校  
仙台市立住吉台小学校  
仙台市立台原小学校

仙台市立高砂小学校  
仙台市立高森東小学校  
仙台市立田子小学校  
仙台市立立町小学校  
仙台市立燕沢小学校  
仙台市立鶴が丘小学校  
仙台市立寺岡小学校  
仙台市立遠見塚小学校  
仙台市立富沢小学校  
仙台市立長町小学校  
仙台市立長町南小学校  
仙台市立七北田小学校  
仙台市立西山小学校  
仙台市立原町小学校  
仙台市立東仙台小学校  
仙台市立耕江小学校  
仙台市立松森小学校  
仙台市立南小泉小学校  
仙台市立南材木町小学校  
仙台市立南吉成小学校  
仙台市立宮城野小学校  
仙台市立大和小学校  
仙台市立吉成小学校  
仙台市立連坊小路小学校  
仙台市立六郷小学校  
仙台市立若林小学校  
大和町立落合小学校  
大和町立鶴巣小学校  
多賀城市立多賀城小学校

多賀城市立多賀城八幡小学校  
富谷市立明石台小学校  
富谷市立成田東小学校  
富谷市立日吉台小学校  
富谷市立成田小学校  
登米市立浅水小学校  
登米市立佐沼小学校  
登米市立登米小学校  
登米市立錦織小学校  
登米市立西郷小学校  
登米市立南方小学校  
名取市立館腰小学校  
名取市立ゆりが丘小学校  
東松島市立赤井小学校  
東松島市立大塩小学校  
東松島市立大曲小学校  
東松島市立鳴瀬桜華小学校  
東松島市立宮野森小学校  
東松島市立矢本西小学校  
東松島市立矢本東小学校  
松島町立松島第五小学校  
松島町立第二小学校  
美里町立青生小学校  
美里町立北浦小学校  
美里町立中坪小学校  
美里町立南郷小学校  
美里町立不動堂小学校  
南三陸町立志津川小学校  
南三陸町立伊里前小学校  
南三陸町立入谷小学校  
山元町立坂元小学校  
山元町立山下第一小学校

山元町立山下第二小学校  
利府町立利府小学校  
利府町立利府第三小学校  
亘理町立吉田小学校  
亘理町立亘理小学校  
**新潟県**  
小千谷市立千田小学校  
小千谷市立東小千谷小学校  
加茂市立石川小学校  
加茂市立加茂南小学校  
佐渡市立河原田小学校  
佐渡市立畑野小学校  
三条市立大面小学校  
三条市立保内小学校  
燕市立大関小学校  
燕市立小池小学校  
燕市立吉田小学校  
長岡市立青葉台小学校  
長岡市立柿小学校  
長岡市立東谷小学校  
長岡市立日吉小学校  
長岡市立宮内小学校  
新潟市立五十嵐小学校  
新潟市立漆山小学校  
新潟市立潟東小学校  
新潟市立上所小学校  
新潟市立亀田小学校  
新潟市立木戸小学校  
新潟市立葛塚東小学校  
新潟市立江南小学校  
新潟市立新津第三小学校

新潟市立新津第二小学校  
新潟市立濁川小学校  
新潟市立白山小学校  
新潟市立早通南小学校  
新潟市立東中野山小学校  
新潟市立東山の下小学校  
新潟市立巻南小学校  
新潟市立南浜小学校  
新潟市立横越小学校  
新潟市立鑑郷小学校  
新潟市立両川小学校  
見附市立新潟小学校  
南魚沼市立赤石小学校  
**埼玉県**  
春日部市立武里南小学校  
川島町立伊草小学校  
久喜市立小林小学校  
幸手市立八代小学校  
白岡市立南小学校  
杉戸町立泉小学校  
草加市立草加小学校  
草加市立西町小学校  
所沢市立富岡小学校  
蓮田市立黒浜北小学校  
三郷市立前間小学校  
三郷市立丹後小学校  
宮代町立百間小学校  
八潮市立八条北小学校

宇都宮市立豊郷南小学校  
宇都宮市立ゆいの杜小学校  
小山市立羽川小学校  
上三川町立北小学校  
上三川町立坂上小学校  
上三川町立本郷北小学校  
下野市立石橋北小学校  
栃木市立合戦場小学校  
栃木市立千塚小学校  
**茨城県**  
桜川市立雨引小学校  
**群馬県**  
太田市立宝泉小学校  
**山形県**  
寒河江市立高松小学校  
東根市立小田島小学校  
**千葉県**  
船橋市立三咲小学校  
**東京都**  
江戸川区立篠崎第四小学校  
江戸川区立第二葛西小学校



# 高添一郎会長のご逝去を悼む

公益財団法人野口英世記念会理事

東京歯科大学名誉教授

奥田克爾



故 高添一郎会長

会長の高添一郎先生は病氣のためご療養中でしたが、令和5年11月4日ご逝去されました。

恩師高添先生は「高添一郎小伝」を東京歯科大学学会誌である「歯科学報」に、2018年の118巻5号から2019年の119巻3号まで上梓されておられます。5回目の小伝には、野口記念会の理事、副会長を経て2000年に理事長・会長にご就任され、野口英世記念会に深く関わることになったことを第二の人生と心得られて粉骨碎身されたことが書かれています。その玉稿を惜別の思いで繙きながら追悼文を書かせて頂きます。

先生は東京歯科大学の学生時代から、微生物学講座で熱心に研究に取り組まれておられました。嫌気性菌の培養が難しかったその時代、血液平板状で異臭を放ち黒色集落を形成する細菌を分離することに成功されて、その特性を世界で初めて明らかにされました。1954年の卒業時にはその

研究成果を流暢な英語で発表し、聴講しておられた当時の奥村鶴吉学長は「第二の野口英世の誕生」だと呟かれたとのエピソードも残されています。奥村鶴吉先生は、1933年に野口英世の伝記を岩波書店から刊行されておられましたので、高添先生の発表に感嘆されたのだと思っています。

卒業後は直ちに東京歯科大学微生物学講座に在籍され、1958年には講師に、同年8月には第一回のスウェーデン政府国費留学試験に合格され、ストックホルムのカロリンスカ大学に留学されました。1959年助教教授に就任され、1967年米国テキサス大学歯学部歯学研究所に客員研究員として招聘されていました。1976年には東京歯科大学教授に昇任され、国際的・学際的感覚を身につけて欲しい、との教育方針を重視して大学院カリキュラムの充実に傾注されておられました。堪能な英語を駆使されながら思慮深い胸に響く講義を受けて海外留学を目指した学生も多く、私もその中の一人でした。その後1989年には大学院歯学研究科科長に就任されて、大学院昂揚に大きく貢献されました。

野口英世記念会に血脇守之助先生、奥村鶴吉先生、石塚三郎先生が役員として参画されて以後、東京歯科大学関係者が役員に就いています。第三代理事長を務められた石塚三郎先生は、猪苗代町の野口英世記念館の開館・運営、記念医学賞および奨学資金貸与制度の設立など、今日の財団事業の根幹を築かれました。また、全私財を投じられて新宿大京町に野口英世記念会館を建てられて記念会の法人本部を会館に置かれました。

2004年に「野口英世と東京歯科大学展」の責任者の一人として東京歯科大学水道橋校舎で開催しました。その際の高添先生の記念講演は、聴

講者全員の魂が揺さぶられる程の感銘を与えるものでした。

総理在任中の小泉純一郎は、2006年ガーナのコレブ病院内の野口英世研究室を視察されて野口博士の生涯に大いなる感銘を受けられて、アフリカの病氣と闘っている医学研究者、医療従事者に国籍を問わずノーベル賞に匹敵するような国際賞を創立したいと高添先生に諮詢されました。高添先生は、小泉総理に猪苗代の野口英世記念館を訪問するように要請され、ぜひとも新たな記念賞を作りましようという意気投合されました。これまで50年以上の歴史と伝統のある野口英世記念医学賞と、新しい賞との名称の混同を避けるため、内閣府との綿密な協議を重ねられ、アフリカの医学研究に命を捧げられた野口博士を顕彰する「野口英世アフリカ賞」の設立に精励されました。

2013年高添先生は法人本部でもあった、大京町の野口記念会館の老朽化に伴い、記念館の将来の運営などを熟慮され、記念会館の閉鎖と主たる事務所を猪苗代の記念館に移行して、新たな公益財団法人野口英世記念会の誕生に奮励されました。

高添先生の数々の偉大な記念会へのご功績を畏敬すると共に、心からのご冥福をお祈りしております。





## 令和5年度の受け入れ資料

○レコード「浪花節野口英世―苦難の少年時代―」

(福島県 窪田 等氏)



○『猪苗代で生涯を全うした小林榮』

(福島県・小林俊治・佑子氏)

○黄熱ウイルス電子顕微鏡写真

(神奈川県・高崎智彦氏)

○パストールレリーフ・コッホ直筆サイン

(東京都・宮村達男氏)

○奥村鶴吉著『野口英世』

(本紙表紙・20・21頁関連記事)

(東京都・南部美佐子氏)

○ガーナ土産ケンテ織・民芸扇子

(ガーナ共和国・ガーナ高校生)

○吉田茂野口英世記念館来館写真

(福島県・佐藤信一氏)



観音堂前で説明を受けるう吉田茂氏

○堀市郎親族系譜

(神奈川県・金野多恵子氏)

寄贈者は堀市郎氏の弟佐野良次氏のご子孫にあたられ、ご家族で来館の際に提供くださった。

○土橋醇作「野口英世の像」情報提供

(福島県・菅野洋人氏)

福島県郡山市湖南町ゆかりの画家土橋醇の展覧会において、田畑一作作ガーナの野口英世像をモチーフにした油彩画を土橋氏が描いており、郡山市立美術館で開催された『土橋醇展』で展示されることを教示いただいた。

○野口英世伝記絵本

(茨城県・島本真帆子氏)

○野口英世関連新聞記事

(千葉県・相浦秀也氏)

○論文「野口英世・再考」

(東京都・河野俊哉氏)

○版画「野口英世」

(埼玉県・波田野 浩(浩雲)氏)

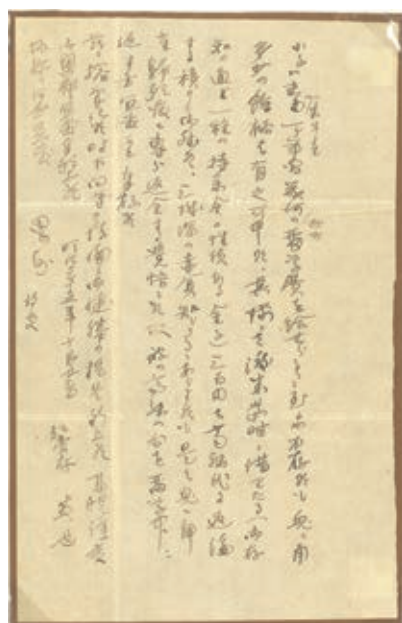
○渡部鼎関係論文

(山形県・松本邦彦氏)

○野口英世書簡・文化人切手

(埼玉県・皆川由理子氏)

1902年10月23日付小林栄宛野口英世書簡。  
フィラデルフィアより、野口英世が小林栄先生に近況を伝える手紙。



本年も多くの方より資料の寄贈、情報提供をいただきました。この場を借りましてお礼を申し上げます。

野口英世に関する資料や情報などございましたら、ご一報いただきたくお願いいたします。



## 令和5年度 主な行事

令和5年

4月1日～令和6年3月17日

企画展「黄熱病原体をもとめて中南米への遠征」

第1回理事会（書面）

第65期野口英世記念奨学生証贈呈式

第1回資金運用委員会

第95回野口英世博士命日祭

猪苗代町より花苗寄贈

第2回理事会

緑小学校緑の少年団花プランター寄贈

第1回評議員会

第3回理事会（オンライン）

自然系高校部活動助成金選考会

野口英世記念医学賞選考委員会

博物館実習受け入れ

駐日ルワンダ大使

アーネスト・ルウムキョ閣下来館

救世観音祭礼

ガーナ高校生よさこい研修来館

（8月28日～9月3日 猪苗代町滞在）

野口英世博士顕彰記念小学校体育祭

於猪苗代町運動公園

駐日スリランカ大使

E・ロドニー・M・ペレーラ閣下来館

野口英世博士顕彰記念小中学校音楽祭

於学びいな

10月3日

野口英世博士顕彰記念少年科学賞審査会  
於至誠館

10月30日～11月10日 茨城県石岡市 野口英世学校巡回展

10月31日 第2回資金運用委員会

11月6日～令和6年1月19日

群馬県館林市 野口英世学校巡回展

第147回野口英世博士誕生祭

第29回野口英世博士顕彰記念少年科学賞授賞式

第62回野口英世博士顕彰記念作文コンクール授賞式

第66回野口英世記念医学賞授賞式

12月1日～令和6年3月15日

感染症ミュージアム 冬季休館

第4回理事会（オンライン）

第22回母から子への手紙コンテスト表彰式

於学びいな

奨学生選考委員会

12月9日 年末年始休館

12月29日～1月3日

令和6年

1月5日 野口英世記念会賞表彰式

於ふくしん夢の音楽堂

団子さし

節分豆まき

野口英世博士顕彰記念小学校スキー大会

於猪苗代スキー場

熊本県阿蘇郡小国町 野口英世巡回展

於北里柴三郎記念館

第3回資金運用委員会

第5回理事会（オンライン）

第2回評議員会

令和6年

3月20日～令和7年3月16日

企画展「野口英世と恩師 北里柴三郎の絆」

第96回野口英世博士命日祭

第1回理事会

第1回評議員会

救世観音祭礼

奨学生懇親会・令和6年度奨学生証贈呈式

野口英世博士顕彰記念小学校体育祭

野口英世博士顕彰記念小中学校音楽祭

第148回野口英世博士誕生祭

第30回野口英世博士顕彰記念少年科学賞授賞式

第63回野口英世博士顕彰記念作文コンクール授賞式

第67回野口英世記念医学賞授賞式

第23回母から子への手紙コンテスト表彰式

令和7年

団子さし

節分豆まき

野口英世博士顕彰記念小学校スキー大会

第2回理事会

第2回評議員会

# 出前授業に行きます！

**科学者** 野口英世の魅力をお話します。

野口英世記念会の職員が修学旅行・遠足などで来館される小・中学校に出かけて、野口英世の生涯と研究業績を、スライドを使ってわかりやすくお話しします。経費はすべて当会が負担します。

出前授業のお申込みは、ホームページの「出前授業申込書」をダウンロードして、必要事項を記入のうえFax(0242-23-7122)してください。



弟子から恩師への  
バトンタッチ

新千円札発行記念

# 野口英世と恩師 北里柴三郎の絆

2024年  
**3/20** 水  
2025年  
**3/16** 日

2024年度野口英世記念館企画展

会場：野口英世記念館 1階展示室

\*野口英世記念館入館料で  
ご覧いただけます。

2024年7月3日新千円札が発行され、肖像画が野口英世から恩師・北里柴三郎にかわります。野口英世が海外へ飛躍した背景には、野口を世界に送り出した北里の力添えがありました。細菌学者として世界で活躍したふたりの師弟の縁をご紹介します。



野口英世帰国時の歓迎会でのふたり



公益財団法人  
野口英世記念会

Hideyo Noguchi Memorial Museum  
**野口英世記念館**



野口英世記念館・感染症ミュージアム／入館料金

一般	大人 (15歳以上)	1,200円	こども (小・中学生)	550円
----	---------------	--------	----------------	------

■休館日

年中無休(ただし12月29日から1月3日を休館)  
※感染症ミュージアムは冬季休館あり

■開館時間

4月～10月 午前9時～午後5時30分(入館は午後5時まで)  
11月～3月 午前9時～午後4時30分(入館は午後4時まで)



〒969-3284 福島県耶麻郡猪苗代町大字三ツ和字前田81(三城洞)  
TEL:0242-65-2319 FAX:0242-65-2500

# ご寄付の お願い

よろしく  
お願いします。



野口英世記念館  
広報大使  
ヒデイ

皆様におかれましては、日頃より公益財団法人野口英世記念会の事業にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

野口英世記念会は、設立以来、野口英世の偉業を記念しこれを後世に伝えるべく今日まで活動してまいりました。また、野口英世記念医学賞の授与、野口英世記念奨学金の貸与・給付、そして学校や地域の社会教育・文化活動への様々な支援を行ってまいりました。

平成27年には野口英世記念館をリニューアルし、令和4年7月に日本初の感染症に特化した博物館として野口英世記念感染症ミュージアムを新たに開館いたしました。多くのお客様に、野口英世の偉業と感染症について理解を深める一助としていただきたいと存じます。

当記念会は、野口英世の生涯と業績をより多くの人々に知って頂くだけでなく、今後なお一層の社会貢献を進めてまいる所存であります。

つきましては、皆様には当記念会の活動に重ねてご理解をいただき、なお一層の活動充実のため、ご寄付を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人野口英世記念会

## 寄付の申込方法

- 「寄付申込書」に必要事項をご記入いただき、事務局まで郵便、FAXまたはE-mailでお送り下さい。お申し込みは随時受け付けます。
- お申し込みをいただきましたら、野口英世記念会から郵便振込用紙をお送りします。振込手数料は野口英世記念会が負担します。
- 寄付金の額は、一口3,000円からお願いします。
- ご寄付を頂いた方は寄付者銘板に芳名を掲載します。掲載を希望されない方はお申しつけ下さい。

- ご寄付頂いた寄付金は税法上の優遇措置として税額控除または所得控除の対象となります。住民税についても、都道府県又は市区町村の条例指定により税額控除の対象となる場合があります。詳しくは、お住いの都道府県・市区町村にご確認ください。(当団体に対する寄付金は、福島県の条例指定対象寄付金です。)

- ご寄付の特典  
3,000円以上の方:招待券1枚  
6,000円以上の方:招待券2枚  
15,000円以上の方:野口英世関連商品[2,000円相当]、招待券2枚  
30,000円以上の方:野口英世関連商品[5,000円相当]、招待券2枚  
60,000円以上の方:野口英世関連商品[10,000円相当]、招待券4枚

## 寄 付 申 込 書

### 寄付金額 金 円

ふりがな	
氏 名	印
住 所	〒
電話番号	
E-mail	@

◎ ご記入いただきました寄付申込書は、下記事務局まで郵便、FAXまたはE-mailでお送り下さい。

事務局

公益財団法人 野口英世記念会

〒969-3284 福島県耶麻郡猪苗代町大字三ツ和字前田81番地

TEL:0242-85-7867

FAX:0242-23-7122

E-mail:office@noguchihideyo.or.jp



公益財団法人野口英世記念会

# 野口英世記念館・ 野口英世記念感染症ミュージアム案内

## 【設立】

1939年（昭和14） 5月21日 野口英世記念館 開館  
1954年（昭和29） 福島県第1号登録博物館  
2022年（令和4） 7月2日

野口英世記念感染症ミュージアム開館

## 【沿革】

1928年（昭和3） 5月21日野口英世博士が西アフリカで殉職した翌月、日本工業倶楽部で行われた追悼会に際し、「野口英世博士記念会」（記念会）が設立された。  
記念会は、翌年に生家の保存と二つの記念碑を建立、1938年（昭和13）には、文部大臣より財団法人の設立が許可され、その翌年の博士の命日に「野口英世記念館」が開館した。  
記念会は、2013年（平成25） 4月、公益財団法人に移行し、2015年（平成27） 4月には、新展示館をリニューアルオープンした。  
2019年（平成31） 3月、生家が国の登録有形文化財に登録された。  
2022年（令和4） 7月、「野口英世記念感染症ミュージアム」が開館した。

## 《ご利用案内》

### ◆開館時間

4月～10月 午前9時～午後5時30分  
11月～3月 午前9時～午後4時30分  
ただし最終入館は閉館30分前まで

### ◆休館日

〈野口英世記念館〉  
年末年始（12月29日～1月3日）  
12月1日～3月15日 冬季休館

### ◆入館料金

〈記念館・感染症ミュージアム共通券〉

○個人料金	大人 1200円
子ども（小中学生）	550円
○団体料金（20名以上）	大人 1100円
子ども	450円
○学生団体（学校引率）	小中学生 450円
大学・高校・各種学校	800円

〈冬季記念館入館券〉

○個人料金	大人 800円
子ども（小中学生）	400円
○団体料金（20名以上）	大人 700円
子ども	300円
○学生団体（学校引率）	小中学生 300円
大学・高校・各種学校	500円

（2024年4月現在）

### お問い合わせ

福島県耶麻郡猪苗代町三ツ和字前田81  
電話 0242（65）2319  
ホームページ  
<https://www.noguchihideyo.or.jp>

## 野口英世記念会報 第69号

### 公益財団法人野口英世記念会

発行日 2024年4月1日

発行人 倉根 一郎

編集人 森田 鉄平

〒969-3284

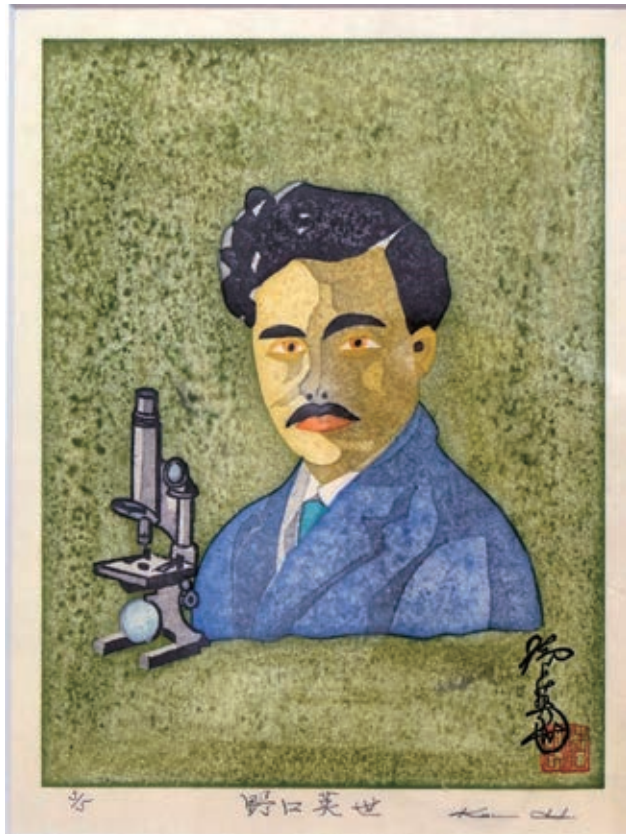
福島県耶麻郡猪苗代町大字三ツ和字前田81

公益財団法人野口英世記念会

電話 0242（85）7867

FAX 0242（23）7122

E-mail [office@noguchihideyo.or.jp](mailto:office@noguchihideyo.or.jp)



公益財団法人 野口英世記念会